総合的な放課後対策推進のための調査研究

事業報告書

（財）日本レクリエーション協会が「放課後子ども対策」として展開している「子どもの居場所づくり」の取り組みを活用して構築したの自主自立に向けた事業モデルづくり

※（財）日本レクリエーション協会が実施する「子どもの居場所づくり」は、「あそびの城」と称して全国で展開している。

はじめに

本報告書は、文部科学省より、平成19年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究事業」の委託を受けて実施したモデル事業の成果を報告するものである。

本事業では、放課後子ども教室に共通する課題であるボランティアの確保に向け、小さいアクションながら、子どもが安全に過ごせ、健やかな体験の機会を提供する自主的な子ども教室にてモデル研修会を開催し、その効果を検証した。

各地域の成果は小さなものかもしれないが、小さなアクションで、小さいながらも成果を上げたノウハウを多くの地方公共団体にご活用いただければ、大きな成果につながるものと考える。

本報告書が、新たな放課後子ども教室を立ち上げる、あるいは子ども達への体験メニューの豊富化を図ろうとする既存の放課後子ども教室に微力ながら寄与することを願う。

もくじ

はじめに 1
もくじ 2

第 1 章　放課後子ども教室を支える人材
1. 多様な放課後子ども教室の運営 3
2. 「地域子ども教室」実施報告から見た「放課後子ども教室」運営形態 4
3. 子どもの居場所を支える人材 6
4. より多くの地域住民に関わってもらえる可能性 7
5. 人材不足の課題を解決するために 8

第 2 章　モデル事業の概要
1. モデル事業の趣旨 9
2. モデル地区指定 12
3.3 地区共通に実施する研修会の基本構造（考え方） 12
4. 研修会プログラムの構成 15
5. 研修内容 15
6. 研修会受講後の活動サポート 16
7. 地域ミーティングの開催 16
8. アンケートによる評価検証 16

第 3 章　モデル地区報告
1. 秋田県秋田市での取り組み 17
2. 山梨県山梨市での取り組み 23
3. 静岡県富士宮市での取り組み 29

第 4 章　モデル事業の成果
1. 効果的な研修プログラム 35
2. 新たな人材確保と多様なプログラム提供 38
3. ボランティア自身の喜び 39
4. 安定した運営 39
5. 地域の様々な団体、機関との連携 40

第 5 章　事業推進委員会総評
1. 事業推進委員会の議論のポイント 41
2. モデル事業実施地区受講者アンケート結果～抜粋～ 43

第 6 章　事例からみる将来像
事業モデルの活用へ向けて 47
秘められた多様な可能性 48
「あそびの城」MAP 54
コミュニケーションワーク 58
レクリエーションインストラクターの紹介 60
都道府県レクリエーション協会連絡先一覧 62

おわりに 63
事業推進委員 64

第１章

放課後子ども教室を支える人材

１．多様な放課後子ども教室の運営

●放課後子ども教室の運営指針

放課後子ども教室では、学校の余裕教室や地域の児童館、公民館等を活用し、地域住民の参加・協力を得て、放課後や週末に、子ども達が安全で健やかに活動できる居場所づくりを目的に実施されている。

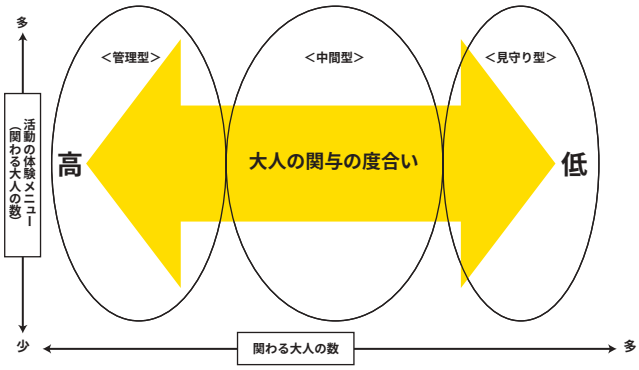
その運営にあたっては、「安全管理面に配慮し、安全管理員の配置」、「学ぶ意欲がある子ども達に学習機会を提供する学習アドバイザーの配置」、「小学校施設を基本に、地域の社会教育施設、児童館等、多様な活動や体験が安心して過ごせる場所で実施」、「概ね年間を通じた実施」、「地域の大人の参画を得ながら子どもたちに勉強や多様な体験の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを育む環境づくりを進める」等の指針が実施要綱に明記されているが、教室の具体的な運営方法（例えばプログラム、日課等）については、実施地域の判断に任されている。放課後の時間帯は学年によっても異なるが、仮に4時間程度であれば、その時間をどんな形で過ごすか、どんな活動（スポーツ、文化活動等）をするかについては、各放課後子ども教室に委ねられている。

●放課後子ども教室の運営形態

運営方法を大別すると、子どもの活動への大人（安全管理員、学習阿蘇バイザー等）の関与の仕方と、活動メニューの量によりある程度分類できる。大人の関与が高い運営形態としては、日課にそって、安全管理員や学習アドバイザー等の指導により、子どもたち全員が同じ時間を過ごすという管理型タイプ。逆に大人の関与が低い運営形態としては、子どもたちが自由に過ごせる空間のみを提供し、安全管理員等は遠巻きに見守るという見守り型タイプ。大人の関与の中間タイプとしては、例えば最初は自由に過ごし、一定の時間は安全管理員等の指導（活動の提供）があり、その後は好みの活動を自由に過ごすといったタイプや、屋台のように様々な活動が用意され、子どもたちが好みの活動を選んで活動するタイプが該当するだろう（Ｐ4図参照）。管理型の放課後子ども教室では、学校の授業をイメージすれば分かるとおり、あまり多くの大人がいなくても、安全を確保しながら運営できるかもしれない。見守り型に近づくにつれ、子どもたちそれぞれに対応する、あるいは安全確保を行うためには大勢の大人が必要になる。もちろん、活動メニューを豊富化するには、それぞれ活動を提供できる人材が必要になるだろう。

放課後子ども教室ごと、取り組みのねらいや関わる大人の数等、地域の実情に合わせて展開されていると思われる。しかし、子どもたちの満足度は、管理型よりも自由に遊べる、あるいは大人からある程度の指導を受け、自分たちで好みの活動を楽しめる方が高くなるかもしれない。

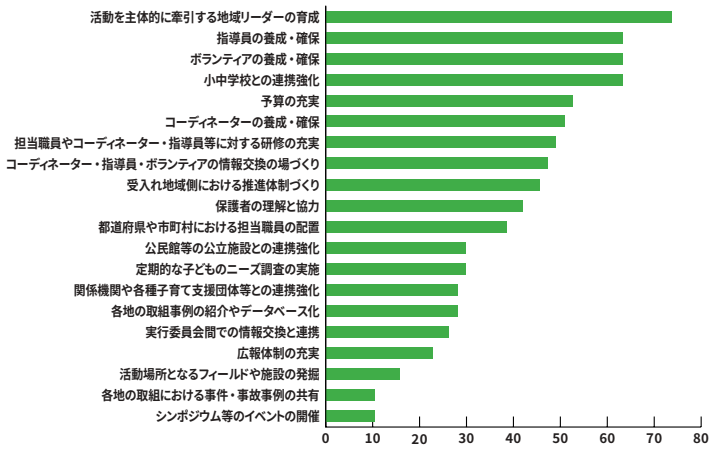
放課後子ども教室の運営形態



2.「地域子ども教室推進事業」実績報告から見た「放課後子ども教室」運営形態

平成18年3月に発行された「地域子ども教室推進事業実施状況調査報告書（地域子ども教室推進事業普及委員会）」によると、57の運営協議会において、『地域子ども教室推進事業をより一層推進していくにあたって、今後どのようなことが必要だと思われるか』という質問（複数回答）の回答を見ると、「活動を主体的に牽引する地域リーダーの育成（73.7%）」が最も多く、次いで「指導員の養成・確保（63.2%）」、「ボランティアの養成・確保（63.2%）」となっており多くの運営協議会において、人材育成の必要性を上げている。

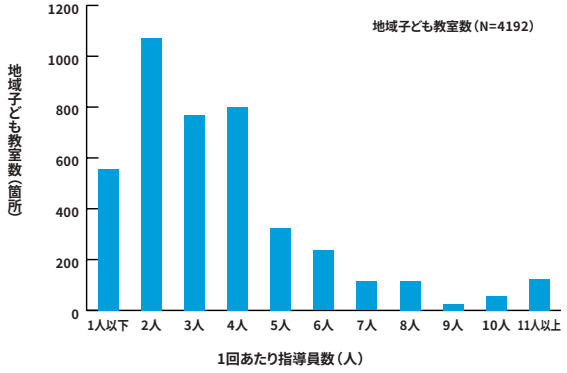
Q：貴運営協議会において「地域子ども教室推進事業」をより一層推進していくにあたって、今後どのようなことが必要だと思いますか。（MA、最も必要と思われるものについてはSA）



「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書　H18,3月より
運営協議会として、地域子ども教室を一層推進していくために必要なこと（複数回答）

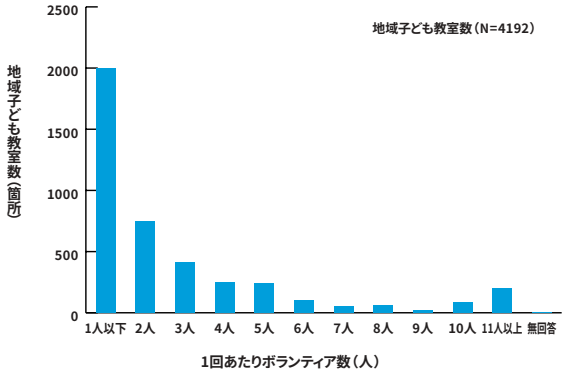
一方、平成16年度事業報告の分析からは、4,192の地域子ども教室の「1回あたりの指導員配置人数」を見ると、「1人以下」が558教室（13.3%）、「2人」が1,071教室（25.5%）となっている（P5図参照）。また、「1回あたりのボランティア参加人数」では、「1人以下」が2,001教室（47.3%）と最も多く、「2人」が750教室（17.9%）であった。さらに、「1回あたりの指導員配置人数別のボランティア参加人数別割合」を見ると、指導員1人以下の配置に対し、ボランティアの参加が1人という教室が300教室弱、指導員2人の配置に対し、ボランティア1人という教室が400強あることがわかる。

（平成16年度事業報告書より集計）地域子ども教室ごとの指導員配置数



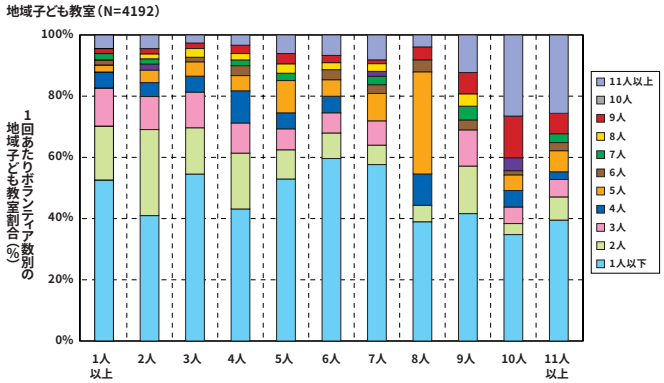
「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書　H18,3月より
地域子ども教室ごとの1回あたりの指導員配置人数

（平成16年度事業報告書より集計）地域子ども教室ごとのボランティア参加者数



「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書　H18,3月より
地域子ども教室ごとの1回あたりのボランティア参加人数

〔事業報告書より集計〕地域子ども教室1回あたり指導員配置数別/1回あたりボランティア数別割合



「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書　H18,3月より
地域子ども教室ごとの1回あたりの指導員配置人数別のボランティア配置人数割合

ボランティア参加人数の低さにも注目されるが、指導員とボランティア2～3名で実施している教室が全体の約17%あるという計算であり、地域子ども教室の運営を支える人材不足が大きな課題として上げられる。

データが地域子ども教室1年目の平成16年度のものであることや、子どもの参加人数、あるいは運営形態による部分もあると考えられるが、筆者である日本レクリエーション協会が実施した平成16年度地域子ども教室（133教室）の1回あたりの配置人数平均は、指導員約5.1人、ボランティア5.8人となっている。これは、前述で見た運営形態が中間タイプで多様な活動メニューを提供していることにもよるが、子どもたちに多様な体験の機会を提供するためにも、指導員（安全管理員）、ボランティアの確保は大きな課題である。

また、ここにデータは示していないが、子どもの参加が100人を超える地域子ども教室で、指導員が1人以下という教室もあり、安全確保の面からも大きな課題と言える。

３．子どもの居場所を支える人材

●多様なボランティアの関わり

放課後子ども教室を支える人材には、様々なタイプがある。前述の通り、事業実施要綱には、子どもの安全管理面に従事する「安全管理員」、学ぶ意欲がある子どもたちに学習機会を提供する「学習アドバイザー」が盛り込まれている。そして、子どもたちに多様な体験の機会を提供する「ボランティア」としての関わりがある。

ボランティアと一言で言っても、多様な関わり方がある。スポーツ、文化的な活動、昔あそび、地域の伝承文化等を教えてくれる人や読み聞かせなどをしてくれる人。教えることが苦手な人であれば、子どもたちの活動を遠巻きに見守る人や子どもたちの中に入ってとにかく一緒に遊んでくれる人。学校であった出来事などの話を聞いてくれる人。一人でいる子に声をかけるなど、子どの達の変化などに気づいてあげる人。放課後子ども教室の中だけでなく、送迎に付き添う人や、夕方通学路に出て下校中の安全を見守る人。体験に必要な教材を提供してくれる人など、実に様々な関わり方がある。

●多様な体験の機会を提供するボランティアに注目

本書では、さまざまなボランティアとしての関わりがある中でも、主に多様な体験の機会を提供する人材について取り上げている。前述したとおり、１回あたりのボランティア参加人数が１人以下の教室が非常に多いという結果もあるが、１人で多様な体験の機会を子どもたちに提供することは厳しい状況である。少ない人数で運営するとなると、参加する子どもの人数が多ければ、管理型の教室にせざるを得ない状況もある。

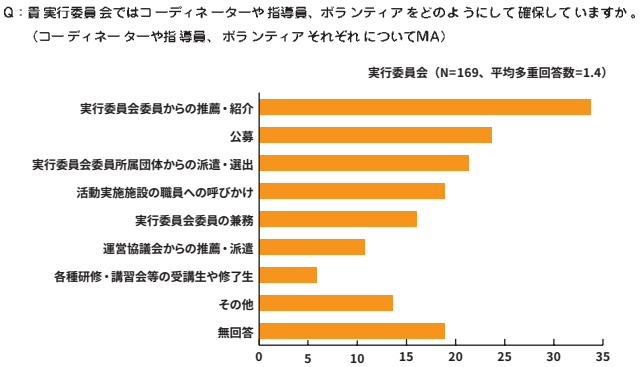
スポーツ、文化活動等、多様な得意を持った人が集まれば集まるだけ子どもたちの体験の機会をつくることができる。得意とは、何か秀でたものを持っているという意味ではなく、趣味や自身の経験で十分である。子どもたちに実施して見せたり、コツを教えて上げれば十分である。子どもたちは自主性、主体性を発揮しながら好みの活動を楽しむことができる。人材不足の課題の中でも、多様な体験の機会を提供するボランティアの確保に焦点をあてて、本事業が取り組んだねらいはここにある。

文部科学省資料より抜粋

4．より多くの地域住民に関わってもらえる可能性

●潜在的なマンパワーの存在

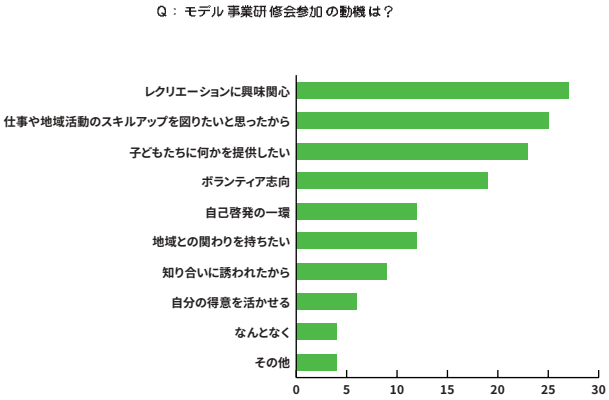
「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書によると、169の地域子ども教室推進事業実行委員会が、コーディネーターや指導員、ボランティアの確保をどのように行ったかというアンケート（複数回答）について、「実行委員会委員からの推薦、紹介」が33.7%と最も多く、次いで「公募」が23.7%となっている。よく人材がいないという声を聞くが、公募により人材を確保している実行委員会が23.7%あることを考えると、地域にはそうした活動に関わりたいという思いを持った人が多数いると想定できる。



「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書　H18.3月より
実行委員会によるコーディネーター、指導員、ボランティアの確保の方法

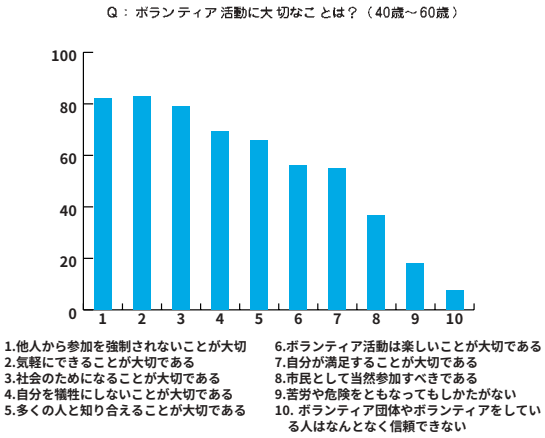
第4章以降で詳しく見ていくが、本事業で行ったモデル事業では、「子どもたちに何かを提供したい」、「ボランティア志向をもっている」、「地域との関わりを持ちたい」という思いを持った人が、ボランティア研修会に参加している。このことからも、地域には潜在的なマンパワーが眠っていると考えることができる。

実行委員会等の委員の推薦等による人材確保の方法は有効であり、確実ではあるが、より多くの人材を確保するためには、公募型も有効であると考えられる。



●主体性を発揮できる関わり

データは古いが「平成12年度国民生活選好度調査（H.13.1.内閣府国民生活局）」によると、ボランティア活動に大切なこと（40～60歳）として、「気軽に参加できること」、「他人から参加を強制されないこと」等が高い割合を占めている。また、先に見た研修会参加の動機では、「レクリエーションに興味関心があるから」が最も高い数値となっている。

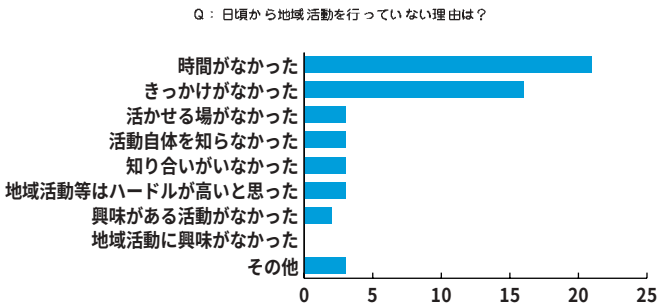


平成12年度国民生活選好度調査　H.13.1.内閣府国民生活局,p12,第」-1-10図をもとに作成

また、同研修会受講者で、日頃地域活動を実施していないという人の理由は、「時間がなかった」が最も多く、次いで「きっかけがなかった」であった。時間的な理由については対応することが難

しいが、「きっかけ」については対応することが可能である。

ボランティア志向を持った人は地域に多数いる。その人達が、気軽に、強制されずに楽しく関わるきっかけをつくることで、より多くのボランティアの確保が可能となるかもしれない。



5．人材不足を解決するために

先に見たとおり、関係者による推薦、地域の様々な団体からの派遣要請（動員）、個々のボランティアのネットワークによる広がりなど、放課後子ども教室に関わるボランティアの確保を進める方法はいろいろある。いろいろある中で、本モデル事業では研修会をきっかけとしたボランティア確保の検証を行った。

・キーワードは、「楽しさ＝レクリエーション」、「主体性の発揮＝非強制・気軽さ」
・ボランティア志向を持った人にきっかけをつくること
・楽しさが活動の原動力となること
・自分自身のやりがいを感じてもらうために、得意の発揮など、主体性が発揮できるようにすること

これらにコンセプトを置いた取り組みを次章より報告する。

第2章では本モデル事業の概要、第3章ではモデル事業を実施した3地区それぞれの活動報告を紹介する。そして、第4章ではモデル事業を通して得られた成果をまとめた。第5章では、本事業の事業推進委員会での議論のポイント及び、モデル事業のアンケート結果を取りまとめた。第6章では、モデル地区以外で子どもの安全で健やかな居場所づくりに取り組んでいる教室で、研修事業と連動させながら様々な地域の課題に応えている事例等を紹介する。

第2章

モデル事業の概要

1．モデル事業の趣旨

●自主自立のために、人材確保を焦点に置いた取り組み

本年度から国の補助事業としてスタートした放課後子ども教室とは別に、昨年度まで実施してきた地域子ども教室を自主的に継続展開する地域も多数存在している。自主的に展開する場合、特に運営を支えるボランティアの確保が必要不可欠である。実施地区それぞれが、工夫を凝らしながら人材確保に取り組んでいるが、ボランタリーな活動には義務感だけでなく、関わる人材自身が主体性を発揮できるなど、やりがいにつながることが重要であり、今そうした関わり方が求められている。

本事業は、補助事業として放課後子ども教室を実施する団体、及び独自に子どもの居場所づくり等を実施する団体のいずれにも求められる自立的な運営モデルの開発を目的に、3地区での事業検証を通じ、地方自治体との連携やサポートを得ながら、マンパワーの確保を進める研修会モデルの開発と、研修会受講生による多様なプログラム提供モデル（教室での主体的な関わり方）づくりを行った。

●多様な人材が関わり、子どもたちへの多様な機会を提供

本会が平成16年度から全国的に展開してきた地域子ども教室推進事業（平成18年度は167カ所で実施）は、新しく子どもの居場所を一から立ち上げ、多様な人材（スポーツや文化的な趣味活動を楽しむグループ、定年退職者、ボランティア志向を持った人など）の関わりを得ながら、多くの活動プログラムを子どもたちに提供し、保護者からも高い評価を得て展開することができた。これらの成果は、地域の様々な人材が事業に関わるきっかけとなる研修会の開催に力点を置いて取り組んできたことによるものと考えられる。

今回取り組んだ研修会事業は、子どもたちと1対1あるいは集団とのコミュニケーションを取る技術や子どもたち相互のコミュニケーションを促進する方法を学習する内容で展開する。そして、研修を受けた人々が自信を持って現場デビューを果たし、自分の趣味活動等を子どもたちに提供することで、主体性を発揮しながら継続的な関わりを保つ。さらに子どもたちにとっても多様なプログラムを享受することで、満足度をより高めることを目的とした。

●安定的な運営に向けたボランティアの確保

限られた人材による運営では、運営者の負担感はもちろん、活動プログラムの単調化を招き、子どもたちの満足度の低下や参加率の減少につながり、せっかくの活動が消滅することも危惧される。

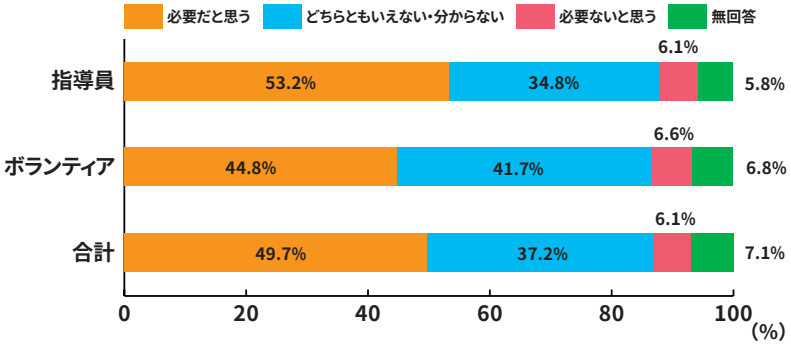
地域には、趣味活動等を活かしながら放課後子ども教室等に関わりたいというボランティア志向を持った人材や、安全安心な子どもの居場所を見守りたいという人材が多数いると推測できる。しかし、関わるきっかけがない、あるいは自信を持って子どもたちに活動を提供する技術がないため、二の足を踏む人も少なくはない。

こうしたマンパワーをいかに活動に誘い入れ、また継続的に関わってもらうかが、補助事業、自主展開を問わず、すべての教室の自立に向けた安定的な運営を行う重要な要素となる。

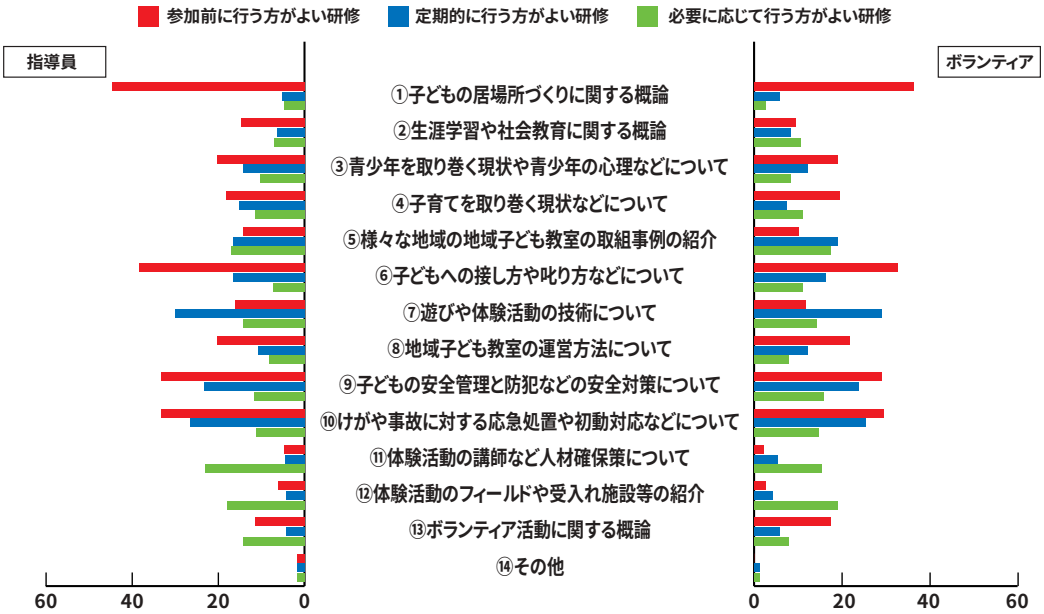
ボランティア志向が高い地域住民の方々が活動に関わりやすいきっかけをつくる意味からも、本事業での研修会は意義あるものであった。これについては、文部科学省の「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書（H18.3月）の中での「地域の大人がスタッフとして活動する場合、研修は必要だと思うか」という問いに対しての回答からも読み取れる。

●子どもたちの成長

Q：あなたは、地域の大人が地域子ども教室でスタッフとして活動する場合に、参加者に対する研修は必要だと思いますか。



Q：どのような内容の研修がどのような時期に必要だと思いますか。（MA）



今日の社会環境の悪化においては、子どもたちの安全安心を確保する居場所を設ける施策の展開と同時に、子どもたちの健全育成（成長）を家庭、学校、地域が一丸となって取り組むことが求められている。

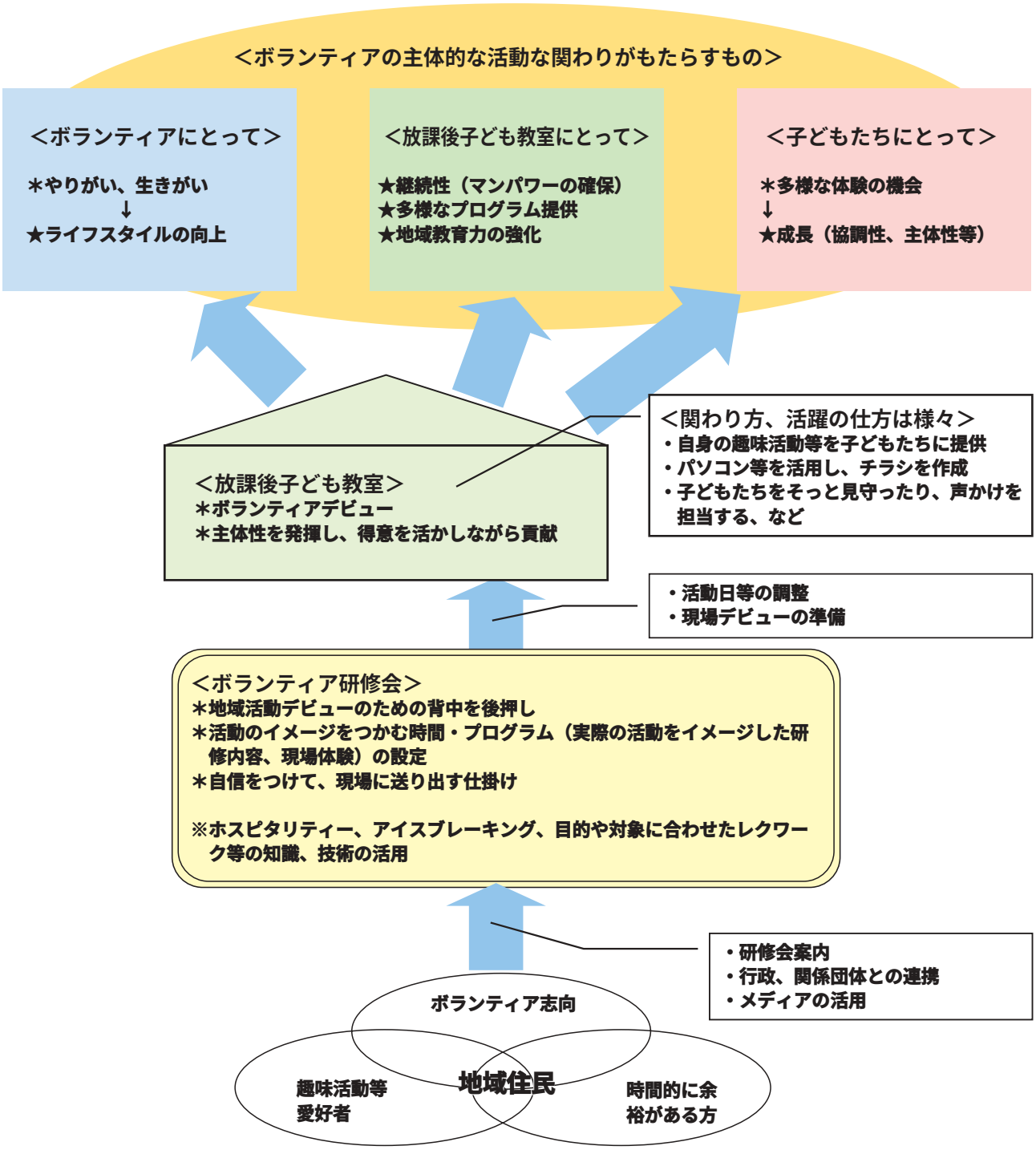
本事業においても、ただ単に子どもたちに多種多様な「遊びプログラム」を提供し、受動的な満足度を高めることだけに止まらず、子どもたちはボランティア（大人）との関わりを通して、これから社会生活を営む上で必要不可欠なルールやマナー、協調性、コミュニケーション能力などを養い、更に創造性豊かで主体的・自主的に行動し得る人格形成を促進することも念頭においた事業・プログラム展開を図ってきた。

●ボランティア自身の成長

ボランティア自身も子どもたちと関わる中で、今日の子どもたちの思考や状況を理解する場が生まれ、子どもたちへの接し方に自信を持ち、中には自分の趣味活動等を子どもたちに提供することで、やりがいや生きがいが生まれ、自己実現へとつながることの喜びを得る機会となる。さらにに、子どもたちと接する中で自分に気づき、自分を見つめ、ボランティア自らの人生においての成長にもつなげられる。

以上を趣旨とする本事業は、自主展開する教室のみならず、全ての放課後子ども教室に必要な要素であると考える。本事業の成果を放課後子ども教室を立ち上げる、あるいは活動プログラムを豊富化させる団体等の参考モデルとしての活用が期待される。

モデル地区での取り組み概要



2．モデル地区指定

●地区指定の根拠

今回のモデル事業の実施地区は、放課後子どもプランによる放課後子ども教室実施地区ではなく、自主的に子どもの居場所づくりに取り組む以下の3地区を指定して行なうものとする。

●モデル３地区の概要

①秋田市：平成16年度から実施している地域子ども教室から引き続き、自主的に展開する地区。市内、では全小学校区で放課後子ども教室を実施しているが、教室が実施されない土曜日等の週末の居場所を中心に秋田市レクリエーション協会が展開。放課後子ども教室との連携も視野に入れながら展開している。

②山梨市：平成19年度から新規に教室を自主的に立ち上げて月１～２回程度の頻度で展開。学校との連携はとれているが、若干名のスタッフより立ち上げた教室で、人材確保が急務。

③富士宮市：市レクリエーション協会や種目団体の愛好者により、地域子ども教室から引き続き活動を展開。平成19年度からは、受益者負担により自主的に実施している。富士宮市レクリエーション協会を中心に、地域の趣味サークル等と連携するが、さらに多くの人材を確保し、無理のない安定した運営を目指す。

以上の3地区で前述の趣旨に沿った研修会を開催し、その効果を検証する

3．3地区共通に実施する事業の基本構造（考え方）

本会が３カ年実施してきた地域子ども教室推進事業に直接関わった実行委員会等の人材、各種関係団体及び本会による事業推進委員会を発足し、モデル地区共通に実施する研修会の考え方について協議した。

※事業推進委員会は年2回の会議を開催し、研修会プログラムの立案に関する事項、評価に関する事項等について協議（会議）を実施

まずは、様々な人材が参画できる工夫のポイントとして、

・モデル地区の自治体及び関係団体等と連携して研修会を開催する

・募集にあたっては、放課後子ども教室に個々の得意を活かしながら主体的に関わることが可能であることを前面に出し、各関係団体をはじめ地域住民、趣味サークル等に広く地域に周知を図る。３地区共通のチラシの作成と配布を行う（Ｐ14参照）

・地方紙のメディアも活用する

研修会の基本構造（考え方）としては、本会が3カ年地域子ども教室にて展開した研修会の成果をもとに以下のように大枠を提示した。

・時間数は10時間（2日間）程度

・これまで子どもの居場所づくり等の活動に参加したことがない人を主対象に設定し、参加者自身が楽しみながらボランティアとして関われるように配慮した研修会とする

・１日５時間程度とし、3時間は講座（演習を含む）、2時間は放課後子ども教室の現場体験とする

・講座では、子どもたちとの良好なコミュニケーションの図るための知識・技術の提供や、子どもたちへ

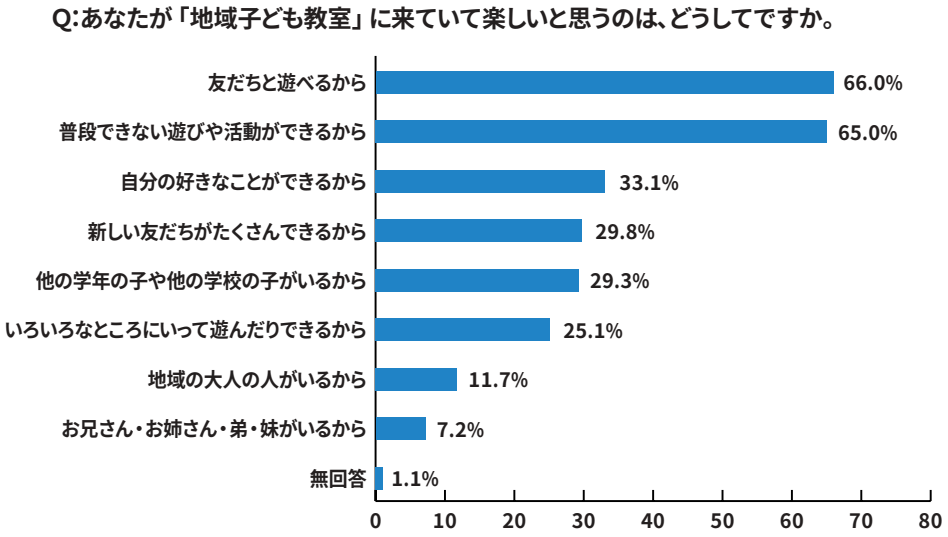
の「楽しい」活動の提供方法について演習を主体に学習する

・コミュニケーションの促進方法として、相手を受け止め、会話を促進しながら安心感を与えるホスピタリティの示し方や、一体感が得られるアイスブレーキング等の技術の学習

・子どもたちへの活動提供の方法については、研修会後、実際に教室で子どもたちに活動を提供することをイメージし、その様々な活動プログラムのシミュレーションを主体とした学習する

・現場体験では、受講生が研修会終了後、子ども教室に参画してもらう場面を想定しながら、現場に慣れてもらったり、既存の指導員とともに子どもたちと「楽しく」遊ぶ中で自分自身に必要な知識や技術等を実感してもらう時間とする

・特に、全体を通して子どもたちに教室に来るのが楽しいと思ってもらうために様々な遊びのメニューを豊富に学習する



＜文部科学省の「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書（H18.3月）より＞

以上の大枠を示し、モデル地区それぞれの現状に則したプログラムを協議の上立案し、実施することとした。

地域に広がる「あそびの城」
“子ども”入門
子ども育て一緒にしませんか？
ボランティアスタッフ
研修会参加者募集中
「あそびの城」は、子どもたちが、
気軽に遊べる「あそび場」です。
子どもから大人まで一緒になって、
昔あそび、ものづくり、自然あそびなど
いろんなあそびを楽しんでいます。
そんな「あそびの城」で、
お手伝いをしてみませんか？

こどもと一緒に遊ぶのは楽しい？？？？
サクサク学ぼう、
子どもの
コ・コ・ロ
こどものココロって理解しにくい？？？？
子どもと遊ぶ実践力がモリモリ身につく！ボランティアベースで子どもたちとの接し方を学びませんか？
子どもたちと一緒に学んだり遊んだりしながら、子どもたちの世界をのぞいちゃおう
あそびの城
ボランティアスタッフ研修会
参加者募集中
研修会概要
日程
1回目 11月18日(日)
2回目 12月8日(土)
プログラム
●申し込み期間
10月22日(月)～11月9日(金)
●先着30名
学習
体験
学習
あそびの城でお手伝い

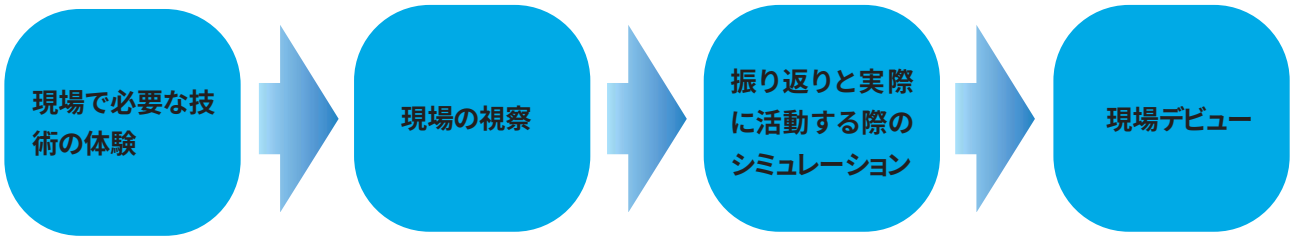
4．研修会プログラムの構成

研修会プログラムの構成は、これまで地域子ども教室等の事業に参画した経験・体験がない、子どもに接する機会が少ないといった、初体験に近い人材にも受け入れやすい流れを想定して構成した。

まず、一段階としては現場をイメージし、その現場で必要な様々な技術の体験を行なう。特に、子どもの理解、子どもとの接し方等の学習として、子どもたちと良好な関係を築く「コミュニケーションワーク」の体験学習。相手の興味関心を引き、活動に積極的な姿勢での参画を促す「レクリエーション展開ノウハウ」の演習プログラムを中心に実施した。

次は、現場の視察（見る、体験する）を行い、学習したものを活かして自分なりに子どもたちと接したり、既存の指導員の姿を目で見て学ぶ機会を設定した。そして、その振り返りを行い、実際に活動する際のシミュレーションを受講者同士で展開し、現場体験（デビュー）へとステップする構成である。

講座と現場体験を連動させることで、具体的な活動場面をイメージできるとともに、そこで必要とされる基本となる知識、技術を学び、実際に受講生が子どもたちと接する際の自信を獲得することを想定した。



また、研修を構成する上で、「楽しさ」をベースにした仲間づくりに重点を置くことにした。一般にボランティア活動や地域活動というと敷居が高いイメージもあるが、本モデル事業では「楽しさ」を前面に出しながら展開。研修会自体も堅苦しい研修を行なうのではなく、レクリエーション・ワーク等の楽しい演習を中心に実施し、研修会自体が居心地の良い場となるよう配慮して展開することが重要と考えた。

5．研修内容

研修会での主な内容としては、それぞれのモデル実施地区の状況に応じて、以下の５つをポイントに学習する。

①子どもとの良好なコミュニケーションを図る方法（詳しくはＰ58参照）

子どもたちとの良好なコミュニケーションを図る上で不可欠な、ボランティアスタッフとしての話し方、表情、姿勢、態度、行動について演習的に学習

②遊びの効果を体感的に理解する

様々な遊び・プログラムを実際に体験しながら、受講者同士でその振り返りを行い、それぞれの遊びの楽しさのポイントや効果を体感的に共有する学習。

③プログラムを提供するコツ

様々なプログラムを子どもたちに効果的に楽しく伝えるための声の出し方、話すポイント、動作などを、受講者自らが体感しながら、その知識や技術を習得また、活動の一定時間の進行を担当することを想定し、その効果的な展開プログラムの組み方を学習

④子どもたちに合わせた活動のアレンジの方法

子どもたちの年齢や状況に応じた能力や発育・発達に合わせた活動素材のアレンジ方法の習得。また、子どもの前向きな反応を捉え、それを評価し、他の子どもたちにも波及させてながら、段階的に効果を

高めていく手法を学習

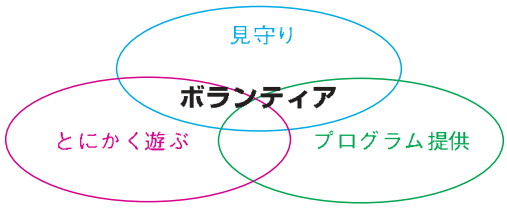
⑤受講生同士で気づきあう

受講者同士が楽しみながら、様々な現場を想定し、進行役と参加者役になってシミュレーションを行い、様々な現場に即したスキルを身につける学習

6．研修会受講後の活動サポート

ボランティアを希望する人にもいくつかのタイプがある。現場で子どもたちと一緒にとにかく遊びたいという人から、周りで子どもたちを見守りながら支援したい人、実際に活動のプログラムを提供したいという人など、その希望やニーズは様々である。

各受講者がどういった関わりのボランティアを望んでいるのかを把握し、研修会受講後に現場デューする際、それぞれのニーズを現場で十分発揮できるよう、各現場の環境整備を進めると同時に、各ニーズに応じて随時、活動時のサポートを行う。



＜様々な現場デビューのスタイル＞

7．地域ミーティングの開催

モデル３実施地区においては、各事業の一連の取り組みを、地域の様々な関連機関、団体、地域住民等に報告する機会として地域ミーティングを開催した。

そのねらいは、今回の事業の報告を通し、本事業への理解者・賛同者を増やし、次年度以降の連携強化、人的資源の確保を図るものであった。（詳しくは、第３章参照）

8．アンケートによる評価検証

本事業の評価を検証する方法として以下のアンケートを実施した。

・受講生の研修会事前及び事後の評価
・受講生が現場デビューした際の感想
・受講生が現場デビューした時の子どもたちの感想
・保護者、既存指導員の感想

受講者向けアンケートでは、事前、研修会時、事後の自分自身の変化、子どもの成長（変化）の実感及び、研修会プログラムの検証等を目的に実施した。子ども向けアンケートでは、子ども自身が参加しての楽しさ、異学年や指導員等との関わり、参加の意識等の検証を目的に実施、また保護者向けアンケートでは、子どもの成長（変化）等の検証を目的に実施。

第3章

モデル地区報告

1．秋田県秋田市での取り組み

●モデル地区概要

①モデル地区の活動状況

年間実施回数	15回程度
実施場所	秋田市立八橋小学校・八橋児童館
子どもの数	（一回あたりの平均）15名
活動概要	秋田市では、第２土曜日の学校開放日に、秋田市立八橋小学校の体育館でボール遊びや体を動かす遊びを通じて「子どもの健康づくり・体力向上」などに取り組んでいる。また、第３土曜日は学校に併設された八橋児童館にて、昔あそびや創作活動、文化活動などを通じて「子どもの創造性・協調性の向上」などに取り組んでいる。

②モデル地区の抱える課題

秋田市の「あそびの城」は、学校や児童館とのつながりはあるのだが、地域とのつながりについては未だに確立されている状況とは言えない。今後、地域とのつながりを強化し、地域全体で「あそびの城」を展開していきたい。

秋田市「あそびの城」の様子

●モデル事業内容

①研修会報告

1）事業のねらいと育成する人材

今回の研修会では、プログラムを提供できる人材ではなく、子どもたちと一緒に遊んだり、子どもたちに寄り添い声をかけてあげられたり、子どもと自分、子どもと子ども相互の良好なコミュニケーションが取れる人材を育成することをねらいとする。

2）事業報告

●1回目●

日　　時	平成19年11月10日（土）9:30～16:00
場　　所	秋田市立八橋小学校・秋田県青少年交流センター（ユースパル）
研修プログラム	＜テーマ＞　子どもたちを理解しよう（まずは自らが楽しもう！） ＜内　容＞　初対面の子どもたちと出会った時の対応について リズムに合わせて仲間の輪づくり／１対１の対応／グループづくり 段階設定（遊び活用の原則的なポイント）

現場体験の前に、「あそびの城」ボランティアのイメージ、子どもたちとどのように接してもらいたいかという事についてレクチャーをする。また、子どもと受講生がなじめるように、アイスブレーキングゲーム、グループ対抗でのボール遊びゲームなどを実施し、交流を図った。

現場体験後は、初対面の子どもたちと出会った時の対応について学ぶため、輪になって自己紹介ゲームを実施。そこでは、ハッ！とするものを与えてあげて、それを解除してあげると安心感が生まれるというような話しも出ていた。その後は、場の雰囲気づくりとして、音楽に合わせてじゃんけんをして、同じ物をだした人同士が一緒になり握手する。これを繰り返し、色んな人との交流をする機会をつくる体験をした。また、グループづくりのゲームでは、易しい動作から難しい動作へと、と難易度を徐々にあげていくことが、みんなが一緒になって体験出来るコツであることも学んだ。

●２回目●

日　　時	平成19年12月15日（土）9:30～16:00
場　　所	八橋児童館・秋田県青少年交流センター（ユースパル）
研修プログラム	＜テーマ＞　楽しみの提供方法、コミュニケーションの取り方 ＜内　容＞「あそびの城」現場体験の振り返り 子どもたちの安心感を生み出すために １対１での実際の遊びの活用 「あそびの城」のスタンダードプログラム（プログラム構造）について

前回同様、現場体験の前に、「あそびの城」ボランティアのイメージの再確認、今回は子どもたちとどのように接してもらいたいかという事についてレクチャーをする。また、子どもと受講生がなじめるように、子どもと受講生のペアのチームをつくり、アイスブレーキングゲームを実施し、交流を図った。

現場体験の後は、「あそびの城」現場体験の振り返りということで、実際に子どもたちと対応してみてどうだったか、ということを教材として、実体験から子どもとの接し方を学習した。その後は、子どもたちの安心感を生み出すためにということで、安心感を与えるための接し方についていくつか体験をしたり、コミュニケーションの基礎となる対応方法を学んだりした。そして、最後にプログラムの構造について「起承転結」の構成（詳しくは、6章のコミュニケーションワーク参照）における、レクリエーションのアプローチ方法を学習した。

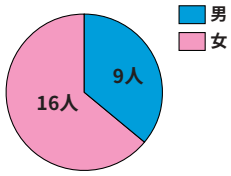
参加者の特徴

参加者状況、アンケートから見ると、今回の参加者は、「時間がない」、「知人がいない」などの理由で、普段は地域活動に参画していない方の参加が多く見られた。また、年代層で見ると、10～20代の学生が約7割を占め最も多く、次に60代前後の主婦や自営業の方など比較的時間の取れる方が多く見られた。

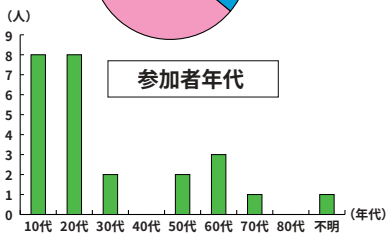
当日の様子

現場体験の場面では、子どもたちと年代が近い学生が多く参加してくれたことで、一緒になって楽しそうに遊ぶ姿が見られた。また、研修会では、子どもたちと触れあった体験を、そのまま学習にいかすことができるので、研修効果がより高まったように感じた。

参加者性別



参加者年代



参加者職業

学生	16人
不明	3人
自営業	2人
地方公務員（教員等を除く）	1人
高齢者福祉施設等職員	1人
主婦	1人
無職	1人

3）現場デビューの様子

研修会受講者は、現場体験の時から子どもたちと接していたため、子どもたちの方から研修会受講生の方へ歩み寄っていく場面が見られた。研修会をあわせると現場デビュー時に顔をあわす機会が3回目になる。回を重ねるにつれて顔を覚えてもらったり、また来てねという言葉をかけられたりすることで、研修会受講生にとっては、子どもたちから慕われているという実感が芽生え、すんなり活動へ入っていくことができたように感じる。

4）参加者の声

新しい発見や自信がついたこと

・子どもの特徴や行動、子どもとの触れあい方が分かった
・コミュニケーションをとることに自信がついた
・我々の積極性が大切だと実感した

現場体験の様子

現場体験に参加して得たこと

・どうやって接していいのか分からなかったが、子どもたちと楽しく遊べるようになった
・年齢関係なく、子どもとスタッフ全員でひとつのことをやり遂げた実感があった
・手作り遊びを習得し、遊ぶことの楽しさを実感した

今後さらに学習したいこと

・様々な人との交流の大切さについてもっと学んでいきたい
・子どもたちとの触れあい方は理解できたが、より深めるための学習をしたい
・プログラムを進行していくために必要なことを学習したい

②地域ミーティング報告

1）事業のねらい

子どもたちを取り巻く環境悪化に対する取り組みとして、「子どもの居場所づくり」活動を地域に広くＰＲすることで、賛同者や協力者を募ることをねらいとする。

2）事業報告

日　　時	平成20年2月16日（土）　第一部：9:30～11:30　第二部：13:00～15:00
場　　所	第一部：八橋児童館　第二部：秋田県青少年交流センター（ユースパル）
実施プログラム	第一部　「子どもの居場所づくり」体験　～子どもたちと昔あそびに挑戦！～ 第二部　今「子どもの居場所」がおもしろい!! 秋田市「あそびの城」を紐解く 地域で育てる「あそびの城」を目指して 秋田県レクリエーション協会の応援、支援施策の紹介

参加者の特徴

行政担当者はじめ、レクリエーション関係者や学生、研修会の受講生など様々なバックグランドを持った方が参加してくれた。

当日の様子

研修会の受講生からは、今後も継続して「あそびの城」に関わっていくために必要な要素についての意見を頂いた。主催者からは、より多くの理解者を増やしていくためのアイディアがでてきた。行政担当者からは、行政施策との関連性、あるいは発展的な連携方法などについてのご示唆も頂き、それぞれの立場から、それぞれの意見を交えることで、「あそびの城」を地域に根付かせ、地域全体で支える体制を作っていくための有意義な討議が行えたように思う。

3）参加者の声

●研修会の効果について

主催者側の意見

・学生がたくさん参加してくれたことで、子どもたちは、自分のお兄さんお姉さんのような感覚で接していた。大人が分からないことを子どもが教えてあげるなど、良い雰囲気であった。
・児童館の職員が、学生の対応を見て感心していた。年が近いことで子どもの接し方がうまく、参考になったと、スタッフからの声もあった。
・「あそびの城」について、児童館や学校、地域での理解はどの程度あるのだろうか。個々の理解者を増やしていきたいと思う。
・学生は子どもと目線が一緒、それがとても良い雰囲気を作っていたように思う。

参加者側（受講生）の意見

・子どもはかわいい、楽しい。私は子どもに人見知りしちゃって深くつきあえていないと思っていたけど、「お姉ちゃんって○○だよね」と、声をかけられるなど、子どもから話しかけられたり、気づかされたりすることがあり、良い体験ができたと思う。
・はじめは不安だったけど、また来てねとか、顔を覚えられていることが嬉しかった。

●次回以降へ向けて

主催者側からの意見

・「あそびの城」では、子どもをただ単に叱ったり、ダメとか、こうしろとか言ったりするのではなく、子どもの様子を伺いつつ一緒に遊んでいく中で育んでいきたい。
・研修会を受講してくれた方に、次のステップを提供してみてはどうか。子どもたちを見守るというボランティアから、10分でも何か前に立ってデビューをしてもらう機会があると主体性、積極性などが引き出せるのではないかと思った。

研修会の様子

・「あそびの城」って何ですか、とならないようなＰＲをみんなで考えてきたい。どうやったら賛同者・協力者を増やすＰＲができるのかをもう一度つめて行きたい。
・秋田には雪かきをするスノーバスターズというボランティアグループがある。より多くの人材確保へ向けて、「あそびの城」もそんな感覚でボランティア募集などできたら良いかも知らない

●参加者側からの意見

参加者側からの意見

地域ミーティングの様子

・子どもたちを見守るという役割に関わってみて、積極的な子とそうでない子がいることに気づいた。今後、漫画を見ている子どもとどうやって一緒に遊ぶかとか、そういう声のかけ方や対応についても学んでみたい。
・「あそびの城」では、子ども同士で協調性をもって話せるようになると良いと思う。そんな環境づくりをしてみたいと思った。

行政側からの意見

・現在、秋田市では、36カ所の児童館で「放課後子ども教室」を実施している。秋田市が、児童厚生員と安全管理員を委嘱しており、この人達を中心に育成クラブのボランティアと共に展開しているのが現状。今後、現在実施している「放課後子ども教室」へレクリエーション指導者が関わり展開する可能性は十分にあると感じた。

●モデル地区による総評

①事業実施における成果

研修会終了後も、受講生のうち、３～４名の学生がその後の「あそびの城」活動にボランティアとして参画してくれている。さらに、その受講生が学校の友人を連れてきてくれることで賑わっている。スタッフの中から、今回の研修会受講者への次のステップとして、自分たちが何かプログラムを提供する時間を持ってもらうための時間を設けてみてはどうかという意見も出てきている。このように、若い学生が加わってくれたことで活性化にもつながり、学生にとっては良いボランティア体験の機会として機能しているように感じる。

②工夫点

研修会参加者募集にあたっては、地域新聞への掲載は勿論、多くの公共施設、小学校などを通じた投げかけと併せて、大学とリンクして呼びかけを行ったことで多くの学生が参加してくれた。

また、研修会から現場デビューに向けての工夫として、研修会で学習したノウハウや遊びの提供方法などを試す場として、遊びを用意してきてもらうことや、自分たちが楽しんでいる研修会風景や子どもたちからのメッセージ入りのお手紙を郵送するなど、積極的に意欲付けを行った。

遊び方のこつ学ぼう

研修会の参加者募集

市レク協会

秋田市レクリエーション協会は来月十日と十一月十五日、子どもとの遊び方やコミュニケーションのこつを学ぶ「ボランティアスタッフ研修会」を開催する。文部科学省委託事業「（秋田市）あそびの城」の一環。現在、参加者を募集している。

研修会は両日とも午前九時半から午後四時まで。来月十日は岡市の八橋小学校、十二月十五日は八橋児童館で、午前中はそれぞれ「ボールを使った遊び」「ものづくりや手遊び」をテーマに、午後は同市寺内の県青少年交流センター（ユースパル）に移動して行う。

募集定員は先着三十人。二回とも参加するのが原則。締め切りは来月八日。参加費三百円（保険代など含む）。申し込み、問い合わせは同協会・佐藤☎090・4319・5898

秋田魁新聞より抜粋（2007.10.31掲載）

③苦労点

託児所的にならないよう、保護者にどうやって参画してもらうかという点が特に苦労した。研修会を通じて、地域の方とのつながりをより多くつくるという思いもあったが、保護者の参画が思うようにいかず、投げかけを行っても響いていないような現状があった。

④今後の課題

人材確保という点では、多くの学生に参画していただけたが、引き続き、地域全体で「遊びの城」を支えていく体制づくりへ向けて、今回の研修会のような呼びかけを再度実施することや、地域住民への呼びかけ、活動のＰＲなどを行っていくことが求められる。また、今回参加してくれた多くの学生に対し、継続的な誘いがけ、呼びかけを行っていくことで、運営側のスタッフを増やして行きたい。

研修会の様子

2．山梨県山梨市での取り組み

●モデル地区概要

①モデル地区の活動状況

年間実施回数	20回程度
実施場所	日下部小学校（日下部公民館）
子どもの参加者数	（1回あたりの平均）15名程度
活動概要	ここは、山梨市立日下部小学校の児童・家族及び地域の方を対象とし、幅広い交流を持ちながら実施したいという有志2名で平成19年5月に自主的に立ち上げた子ども教室。毎回遊びながら子どもの体力向上を図る活動を自分たちで試行錯誤し、子どもたちに提供している。また、プログラムの全体的な流れにも配慮し、静（ゲーム）→動（体を動かす遊び）→静（クラフト等）のプログラム構成を組んで展開している。

②モデル地区の抱える課題

山梨市「あそびの城」の様子

今年度からスタートした取り組みであり、手探り状態で運営しているのが実情。共に活動に加わっていただく仲間の確保が急務。子どもたちが15名程度の参加であればスタッフ2名で対応することができるが、それ以上の参加があった場合には安全の確保の視点からも課題が多く、保護者の参画にも期待している。また、年間スケジュールを立てて小学校の体育館を借用できないことも1つの悩みとなっている。

●モデル事業内容

①研修会報告

1）事業のねらいと育成する人材

今回の研修会では、1人でも多くの参画者を得たいという思いで実施した。最初は子どもたちと一緒に遊ぶことからスタートし、徐々にプログラムの提供に関わってもらえる人材の確保、中でも既存指導員では対応できないプログラム提供ができる人材の確保をねらいとして実施した。

2）事業報告

●1回目●

日時	平成19年12月8日（土）13:00～17:00
場所	甲府市青少年センター、山梨市日下部地区あそびの城、日下部公民館
研修プログラム	＜テーマ＞ コミュニケーションを促進するコツ ＜内　容＞ 対象者の理解、相手を受け入れる姿勢 対象者と1対1、または1対集団のコミュニケーションのとり方

レクリエーション・ワークと呼ばれる技術を活用し、集団の中で子どもたちが安心感、一体感を得られる技術、安心してコミュニケーションが図れるコツについて、演習を通じて実体験。

例えば、2人組みで自己紹介を行う演習では、1人が話し役、1人が聞き役となり、聞き役は相手が心地よく話せるように表情に工夫を持たせたり、適宜頷いたりしながら話を聞き出す。交代して行った後、今度は聞き役が無表情で話を聞くようにし、その違いについて感想を話しあい、相手を受け入れる姿勢等を学習。

その他にも、じゃんけんゲーム等を通じて、集団の一体感を醸し出す方法（例えば同時動作、同時発声等）を学習。今回は、様々なゲーム等の素材の体験を通じ、受講者自身が他の受講者と打ち解け合う過程を体験し、その効果を実体験として学習した。

● 2回目 ●

日　　時	平成19年12月9日（日）9:00～16:00
場　　所	甲府市青少年センター、山梨市日下部地区あそびの城、日下部公民館
研修プログラム	午前＜テーマ＞　その１：子どもと一緒に遊ぼう ＜内　容＞　1日目の学習成果を確認し、山梨市日下部地区あそびの城（子ども教室）で、実際に子ども達と一緒にプログラムを体験 子ども達の様子を肌で感じるとともに、ボランティアとして活動する現場をイメージする 午後＜テーマ＞　その2：子どもを対象とするプログラム提供ノウハウ ＜内　容＞　子どもを対象としたプログラムの立案の考え方 プログラム提供の演習

午後の研修では、午前中の「あそびの城」体験の振り返りを行った後、受講者が２つのグループに分かれ、身近な素材を使ってできる遊びを考案。子どもたちの興味関心を引きつけるための工夫や、安全への配慮、教育的視点を盛り込みながら、グループで相談して複数の遊びを立案。今回は新聞紙1枚で何ができるか、ボールとロープで何ができるかを考えた。

その後、グループ相互に立案した遊びをそれぞれに提供。その際、提供されるグループは子どもになったつもりで体験することとし、交代で行った後に振り返りを実施。

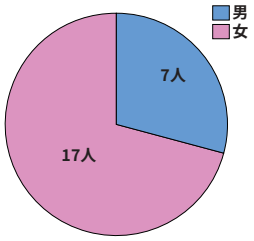
振り返りでは、体験した感想をお互いに発表し合うとともに、講師から気づいた点、ポイント等のコメント伝え、受講者の気づきを促した。ポイントとしては、子どもたちを引きつけるためには、簡単なものから難しいものへ挑戦していく段階設定の重要性、説明は短く、まず実践などの展開ノウハウを伝えた。最後に、今回の遊びを考える過程を子どもたちと遊ぶプログラムに盛り込み、子どもたち自身で遊びづくり、ルールづくりを行うといった展開方法も紹介された。

参加者の特徴

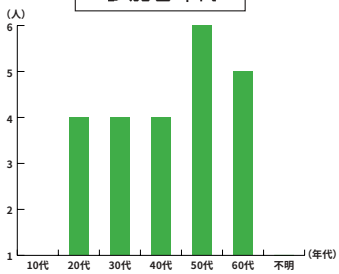
年齢層、職業ともに多様な層からの参加を得ることができた。20代では保育士も参加しており、自身の職場での活動のスキルアップを図りたいとの思いと、仕事とは異なる年齢の子ども達との接点を持ちたいとの意向で参加する受講者もいた。

また、別に開催されたレクリエーション・セミナー（ホームヘルパー研修）に参加した人の受講もあったため、高齢者福祉施設職員等の参加割合が高くなっている。

参加者性別



参加者年代



参加者職業

自営業	2人
保育士	4人
地方公務員（教員等を除く）	1人
高齢者福祉施設等職員	4人
社会福祉協議会職員	6人
パート・アルバイト	2人
学生	1人
主婦	1人
無職	2人
不明	1人

当日の様子

2回を通じて、常に笑いが絶えず、和やかな雰囲気の中で受講者自身が楽しみながら学びを得たり、様々な発見を得る時間となったようだ。2回目の現場体験でも、積極的に子ども達に声をかけながら、一緒に遊ぶ姿が見られた。2回目の演習では、子どもの気持ちで他のグループが提供する遊びを楽しみながらも、振り返りでは、子どもたちに対する説明方法、手順等について気づいた点を気兼ねなく意見交換する場面も見られた。

新聞紙1枚でできる遊びを考え中

3）現場デビューの様子

研修会受講生の中から自発的に数名のグループが誕生した。グループの世話役は現役を引退した男性で、4名の20代の受講者とともに「チーム三四郎」を名乗り、あそびの城のボランティアスタッフとして継続的に関わるようになった。世話役が「あそびの城」担当者と連絡を取り合い、毎回誰が参加できるかを確認するなど、役割分担も生まれている。

教室では、先輩指導員のサポート役を担い、子どもたちに声をかけたり、一人でいる子と一緒に遊んだり、自然にとけ込んでいる様子だった。

4）参加者の声

研修会で得られた内容

- 集団の一体感、緊張を解くアイスブレーキングの重要性と、その技術
- 些細なもの（新聞紙1枚など）からいろいろな遊びができること／プログラムづくり
- 子どもへのレクリエーションの提供の仕方、配慮

新しい発見や自信がついたこと

- 子どもとの接し方、間のとり方など、人とのコミュニケーションの図り方
- 遊びの素材が増えた
- 自分の得意を活かして子どもたちに提供できるのではないか

現場体験の感想

・子どもたちに対する指導法を学んだり、一緒に遊べたことが良かった
・元保育士として、現代の子どもたちの姿を見られたこと
・子どもたちの考え方は十人十色だと改めて思った
・改善点、配慮する点を指摘してもらえて良かったなど

今後の活動への参加希望

－75%が参加希望－

②地域ミーティング報告

1）事業のねらい

山梨市では放課後子どもプランを実施していないが、将来的にプランに乗って展開できるよう、まずは今回の小さなアクションを地域の小学校、公民館、青少年育成関係機関、団体、趣味サークル及び近隣の放課後子ども教室関係者に知っていただくとともに、今後の展開に関する意見交換を行うことをねらいとして実施した。

2）事業報告

日　　時	平成20年2月6日（水）19:00～20:45
場　　所	山梨市日下部公民館集会室
実施プログラム	第一部　山梨市日下部地区における「放課後子ども教室の自主自立に向けた取り組みモデルづくり」報告 1）本事業の主旨／2）日下部地区の「あそびの城」活動概要／ 3）ボランティア研修会の概要／4）モデル事業の成果と課題 第二部　今後の展望に関する懇談 1）報告に関する質疑／2）日下部地区あそびの城の今後の展望 3）子どもの居場所づくり、放課後子ども対策に関する意見交換

参加者の特徴

児童センター職員3名、公民館館長／職員2名、PTA役員2名、近隣市放課後子ども教室関係者（コーディネーター等）4名、社協関係者1名、野外活動関係者1名、レクリエーション関係者8名の参加を得た。残念ながら、生涯学習団体、趣味サークル等の関係者の参加を得ることができなかった。

当日の様子

平日の夜、しかもあいにくの雪に見舞われての開催となったが、報告に対して皆熱心に耳を傾けていただき、その後の質疑では、今回の取り組みを発展させるためのアイディアなど、建設的な意見が出された。しかし、参加する子どもの数には疑問の声も上がるなど、今後活動を継続させていく上での課題も提起された。

子どもとどのような遊びを楽しんでいるか実演（研修会受講者による）

3）参加者の声

草の根活動への評価

・２人（夫婦）で仕事を持ちながら休みの日に取り組む熱意への評価

参加児童が少ないことについて

・児童390名の学校区の2%程度をカバーしている現状をどう考えるか
・参加しない理由の分析が必要
・認知度が低いこともある。認知度を高める必要がある。

児童センターとの関係

・市には3つの児童センターがあり、「あそびの城」同様の目的で行政が運営している。今回の活動を全く知らなかった。同じ目的で実施するのであれば、何らかの連携が考えられるのではないか。積極的にリンクしていくべきかもしれない。
・情報は来ているが、積極的な連携には至っていない。
・同じ目的で実施しているのに、連携体制が取れないということは、せっかく良いことを行っているのに、連携できない何かがある、または別の目的で実施していると見られてしまう危険性もある。積極的に情報提供したり、連携を呼びかけた方が良い。
・児童センターに放課後学童クラブが入ったが、その関係で一般の児童が来なくなったという状況ある。話し合いを行いながら、連携できる方向を探ることも大切。
・児童センターは休日休館であり、日曜日に実施する「あそびの城」とは連携が可能ではないか

地域への広報

・自治会との連携も図るべきである
・回覧板を活用して、周知すると効果的
・お母さんのネットワークも活用すべき

地域ミーティングの様子

休日の開催について

・教育委員会や社会福祉協議会などと手を結べば、もっと広がるのではないか

モデル事業担当者（主催者側）の声

・児童センターとの連携を始め、心強いご意見をいただいたことに感謝
・厳しい指摘も受けたが、レクリエーションを学んだ2人の有志が子ども達のためにできることを考え、まずははじめの一歩を踏み出した取り組みであり、今後の展開を模索する上で、今回の報告を行った旨を伝えた
・児童センターが休館の日曜日を主体に、児童館での実施も検討したい旨を伝え、今後改めて相談に伺うこととした
・今回、生涯学習団体や趣味サークル関係者に参加してもらえなかったが、個人レベルでのボランティア参加だけでなく、すでに得意な活動を持つそうした団体との連携を図りながら、より充実した展開を図りたい旨を伝えた

●モデル地区による総評

①事業実施における成果

前述したが、今回の研修会に、日頃地域活動を行っていない人が多数参加してもらったことは、今後も同様の研修会を実施する上での励みになった。

参加する子どものアンケートでは、ほとんどの児童が新しい大人の参加を快く受け止め、「教えてもらった遊びが楽しかった」、「また来て欲しいと思った」、「もっとたくさんの大人に来て欲しいと思った」という回答が多数得られた。

保護者アンケートからは、ボランティアに研修効果が見えるとの評価や、自身の参画を前向きに検討するとの声が聞かれた。実際に、ボランティアの参加によってこれまでの2名の指導員による展開から雰囲気も変わり、保護者が子どもと一緒に遊ぶ姿も見られた。

地域ミーティングでは、研修会受講者（新たに加わったメンバー）から、「あそびの城」で子どもたちと遊びながら楽しい時間を過ごしているとの報告があった。ボランティア自身のやりがいも得られている様子が伺えた。また、地域の児童センター、公民館等との連携の方向性も見えるなど、貴重な機会となった。

②工夫点

今回の研修会を2日間参加した受講者に、「KIDSレク・サポーター」としての修了証を授与した。資格ではないが、研修した証として、今後の活動の後押し、モチベーションを上げていただく仕掛けとして実施した。また、登録証兼名札（ネームプレート）を配布し、活動時に活用すると共に、裏面には活動履歴を記入する欄を設け、活動の糧にしていただく工夫を施した。

なお、受講者をいかにネットワークしていくかが当初からの課題として上げていたが、結果的に受講者側から横のつながりをつくるグループ（「チーム三四郎」）が自発的に生まれ、世話役を通じて緩やかに繋がる姿をつくることができた。

③苦労点

定期的に「あそびの城」を開催できる教室であれば問題はないが、「あそびの城」の開催日が2ヶ月前程度に確定するという状態であるため、現場体験とセットにした研修会の開催については、研修会の募集に間に合うかなど、日程調整の面で苦労があった。

参加費設定（2日間で2,000円：保険料、飲食、ネームプレート等）についても、金額設定に苦慮した。

④今後の課題

「あそびの城」の運営については、運営スタッフが充実したとは言い難い状況であり、今後もっと多くの地域住民の参加を得て、多様なプログラム展開を実施したいと考えている。また、参加する子どもたちにとっても、ボランティアとして参画する大人にとっても、定期的な開催スケジュール（年間計画）を立て、事前に周知できる体勢をつくることが大きな課題となっている。そのためにも、「あそびの城」の認知度を高めていかなければならないと考えている。

新たな担い手を確保する研修会の開催については、是非とも地域の趣味サークル等と連携し、愛好者の皆さんに参加してもらえるよう、交渉していきたい。

活動をはじめて1年経とうとしているが、本年度の取り組みをステップにしながら、次年度は地域の様々な団体と連携しながら、ステップアップの年としたい。

3．静岡県富士宮市での取り組み

●モデル地区概要

①モデル地区の活動状況

年間実施回数	21回 ※土曜・日曜日：10時～11時30分、火曜日：15時～16時30分
実施場所	富士宮市富丘公民館
子どもの数	（一回あたりの平均）10名
活動概要	富丘小学校の児童を対象に、小学校の近隣に位置する富丘公民館を拠点として開催。火曜日と土曜日または日曜日の月2回程度開催。火曜日は３Ｂ体操を実施し、土日はニュースポーツやゲーム、クラフトや季節のあそびなどを実施。「子どもと一緒に遊んじゃおう」をモットーに子どもとスタッフが一緒に毎回楽しんでいる。

②モデル地区が抱える課題

富士宮市レク協会は、H16～18年度まで「あそびの城」事業を実施し、今年度も継続して活動を行っている。継続実施していく上での課題として、運営側のスタッフ不足が第一にあげられる。やはり、地元の人たちで富丘小学校の子どもたちを見守ることが可能となることが希望である。また、多彩な人材の確保が可能であれば、プログラムの幅も広がり、多様なプログラム展開もでき、多くの子どもたちが集うことも考えられる。その中から、運営の中核を担う人材を発掘できることがさらなる希望である。

富士宮市「あそびの城」の様子

●モデル地区事業内容

①研修会報告

1）　事業のねらいと育成する人材

子どもとの接し方や子どもの考えなど、「子どものココロ」を学ぶことを第一歩とする。子どもと真剣に競争したり、一緒に何かを作ったりなど、「マジ」に楽しむことがとても重要だと考えているのでそれを是非体験してもらいたい。それにより、「あそびの城」をよりよく理解することが可能になると考えている。

2）事業報告

●1回目●

日　　時	平成19年11月18日（日）9:00～14:30
場　　所	富士宮市富丘公民館
研修プログラム	＜テーマ＞　子どもを理解しよう ＜内　容＞　子どもの居場所のとらえ方とボランティアへの期待／子どもの理解 「あそびの城」体験／ケーススタディとして、本日の遊びの城の解説 対個人、対集団での子どもの対応 子どもに提供する素材の魅力と、目的に合わせた素材の選択方法について 素材を楽しく提供する手順（段階の設定、ルールの伝え方）

現場を体験する前の心構えや「あそびの城」が求めるボランティアのイメージをレクチャーした。また、参加者同士の緊張感をほぐすことを目的として、アイスブレーキングゲームを体験した。

「あそびの城」（現場体験）後、プログラム運営者からの進め方や展開方法について、質疑応答を行い参加者の理解を促した。折り紙の難易度設定や、使用した材料や素材について、身近なモノで遊ぶノウハウについて説明を行った。午後には、スポーツチャンバラを体験しながら子どもたちへの指導方法や楽しみ方について実技体験を行った。また、リスクマネジメントについてもレクチャーを実施。富士宮市の「あそびの城」が実際に行っている管理方法や保険に関する事項、また受益者負担の考え方などについて説明。人材確保の重要性や、参加者への期待、気軽にお手伝いに来ていただきたい旨を伝え1回目が終了した。

●2回目●

日　　時	平成19年12月8日（土）9:00～14:30
場　　所	富士宮市富丘公民館
研修プログラム	＜テーマ＞　子どもたちへの接し方のいろいろ ＜内　容＞　人や集団と打ち解けるために活用する遊びの効果の理解 １対１あるいは集団の中で、安心感を得やすくするノウハウの学習 「あそびの城」体験／ケーススタディとして、本日の「あそびの城」の解説 対個人、対小集団との良好なコミュニケーションを図る遊びの展開方法の演習

午前の講義は、アイスブレーキングの意義と基本技術について学習を行った。特に対象が子どもということで、特徴や注意点などについて説明。命令しないことやあいさつ、スキンシップの方法などについて説明。また、オーバーアクションや声のイントネーションより注意を引きつけることが有効であることを説明。

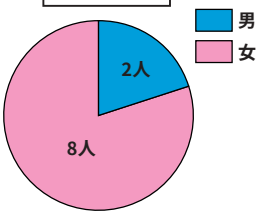
「あそびの城」（現場体験）後の振りかえりを行い、プログラム運営で注意した点などを解説、質疑応答を実施。午後はコミュニケーションゲームを通して、個人から集団への展開方法を体験。コミュニケーションゲームの特徴や必要性、また自然に笑いが発生する効果やプログラムづくりについて解説。ゲームの展開方法や難易度の段階設定について、楽しさの持続性の難しさについて説明を行った。参加者自身も体験を通して理解を深めたように見受けられた。最後に、今後の「あそびの城」への参加について説明を実施。

参加者の特徴

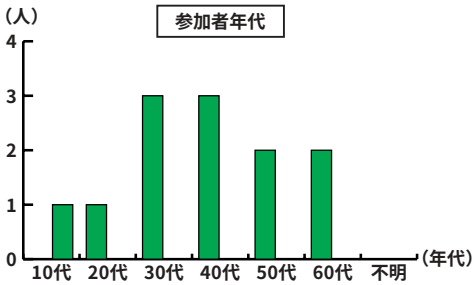
女性に多く参加いただいた。年齢層は40～60代あたりが多く見受けられる。職業は、教員、主婦、学生、高齢者施設勤務、など。日頃の地域活動については、町内会長、民生児童委員、小学校・中学校でのボランティア、青少年指導員、婦人会などを担っている方々。日頃よりボランティア活動に興味・関心があることが伺える。

また、潜在的に「こども達のために何かを行いたい」「ボランティア志向を持っていたから」など、何かやりたいと日頃から思いを持った方々が参加されていた。

参加者性別



参加者年代



参加者職業

主婦	3人
民生員	2人
高齢者福祉施設等職員	2人
不明	1人
中学校教員	1人
学生	1人

当日の様子

1回目の現場体験では、子どもとの接し方に慣れていなく、なかなか声をかけることが出来ない様子も見受けられたが、2回目はスタッフのアドバイスにより、子どもと一緒に参加者自身が楽しんでいる様子がうかがえた。また、「あそびの城」の振り返りで、プログラム展開を丁寧に糸開きしたことによりプログラムの組み立て方を非常に解りやすく理解することができたようである。

3）現場デビューの様子

研修会終了後のアンケート調査によると、今後の参加の希望がある、もしくは検討中と回答した参加者がほとんどであった。ボランティアでの参加ということなので、スケジュールの都合もあるが、今後も定期的に情報提供を実施していきたい。

また、研修会後に開催した「あそびの城」に、数名参加いただき、子どもたちと一緒に楽むことができた。今後も参加意向を持っていただき、スケジュール調整が可能な場合、継続的に参加いただく意向を得ることができた。

まずは、はじめの一歩として、子どもたちと一緒に遊び、楽しむことがスタートしていきたい。

4）参加者の声

研修会で得られた内容

・子どもとの接し方
・様々なレクリエーション体験（幅が広いことを実感）
・アクティビティ体験からあそびに発展させる手法の体験
・人を引きつけたり、笑顔にさせる話し方

研修会での新しい発見や自信がついたもの

・子どもたちに自分から声かけができた
・時間の経過とともに自分から話せるようになった
・子どもたちを注目させるには、大きな声を出すだけではなく、ちょっと変わったことをしたり、わざと小さな声で話したりする手法を学んだ

現場体験の良かった点・困った点

・子どもたちとコミュニケーションがとれた
・子どもの視点に立って接することの重要性
・子どもの活力と笑顔を久しぶりに身近に感じられた
・子どもとのふれあい、同じ目線での共同作業
・プログラムの流れ（導入→展開）を学んだ
・最初のうちはなかなか自分から話しかけるのが難しかった
・見ていて、どこまでの行動を許しているのか、判断が難しかった
・ゲームを楽しませてもらいながらも、スピードにおいて行かれてしまった
・子どもたちに対し、自分を何と呼んだら良いか（おばさん？）
・のんびやの自分が手遊びについて行けなかったこと

「あそびの城」（現場デビュー体験兼ねる）

1回目現場体験の様子

2回目講義の様子

②地域ミーティング報告

1）事業のねらい

富丘公民館ではじめの一歩を踏み出した「子どもの居場所づくり」のアクションと、そこで活躍する人材育成（ボランティア研修）の一連の取り組みに関する報告を実施。

また、様々な立場の皆様と、富丘公民館で開催している「あそびの城」の今後について、意見交換、あるいは相互連携等について意見交換を目的として実施。

2）事業報告

日　　時	平成20年2月5日（火）19:00～20:30	
場　　所	富士宮市総合福祉会館３階　第３会議室	
実施プログラム	第一部	富士宮市「あそびの城」におけるモデル事業報告
		富士宮市「あそびの城」の実施状況
		ボランティア育成研修会の概要と、その成果について
		モデル地区の取り組みから得られた成果と、今後の可能性
	第二部	今後の展望等に関する懇談
		富士宮市「あそびの城」の今後の展開の予定と、参画養成
		それぞれの異なる立場で参加される皆様からのご意見、ご提案等

参加者の特徴

富丘小学校、富士宮市教育委員会、社会福祉協議会、富士宮市レク協会会員などが参加。

当日の様子

国の施策として、昨年度まで実施してきた子どもの居場所づくり事業や今年度から実施している放課後子どもプランなどの内容や取り組み状況や、富丘公民館で実施している「あそびの城」との関係などについて、理解が深まった。また、今回開催した研修会の取り組みについて、人材の必要性や取り組みの方向性について理解をいただくとともに、今後も「あそびの城」の開催継続について協力要請を行い、理解をいただいた。

3）参加者の声（あそびの城へ参加されている子どもや保護者からの意見、アンケートより）

●保護者から

あそびの城への参加理由

・子どもの意志
・友達との交流に期待
・様々な体験・活動ができるから
・子どもの成長に期待
・体力をつけてほしい
・安全な居場所だから

あそびの城へ参加する子どもへの期待

・様々な体験ができる場
・友達と交流する場
・子どもが楽しく過ごせる場
・子どもが成長する場
・安全に過ごせる場

あそびの城の活動内容への期待

・多様な活動の体験
・友達との協調性の育成
・異学年の子との交流
・ルール等社会性の育成
・子どもの体力づくり
・自然体験活動

あそびの城開催への期待

・回数を増やしてほしい
・平日に開催してほしい

子どもの参加状況

・とても楽しいようだ

●子どもたちの声

●モデル地区による総評

①事業実施における成果

「あそびの城」の活動内容や趣旨について、関連団体の方々への理解が深まった。また、活動の必要性や重要性、人材確保の苦労点など、課題を共有することができたことは大きい。また、募集方法についても、研修会案内の周知方法を再考するきっかけとなった。

②工夫点

研修会プログラムづくりにおいて、気軽に参加できるよう早目の終了とした。また、富士宮市で開催した子ども祭りで研修会の募集チラシ配布を行った。

③苦労点

集客に関しての苦労があり、チラシの配布場所を事前に検討すべきであったように感じた。効果的な配布方法と集客については今後の課題でもある。

子供の居場所作ろう

あそびの城 スタッフ養成研修会始まる

富士宮レクリエーション協会（吉野雅代表）など主催の「あそびの城」スタッフ養成研修会が十八日、市立富士公民館でスタートした。

放課後に子供たちの過ごす場所がないことが大きな社会問題となっているが、こうした中で、学童保育やボランティア活動による子供たちの「居場所づくり」が全国的に推進されている。

富士宮市はレクリエーション協会のメンバーが中心となり、子供の居場所づくりを目的とした「あそびの城」を四年前に結成、富士公民館を拠点に活動に励んでいる。

しかし、仕事を持つ若手スタッフが中心のため、日常的に子供たちに触れ合うのが難しい状況にあるという。そこで、経験などに時間のある市民を対象に研修会を企画し、スタッフを養成することになった。文部科学省の委託事業に位置づけられている、研修会には富士宮市子連役員、宮原区寄り合い処メンバー、静岡福祉大学の学生、それに子供ら合わせて約四十人が参加した。

初日の研修会では、富士市で活動している彫山早苗さんが「子供の居場所づくり」の活動についてオリエンテーション・講義を行ったほか、参加者は魚釣りゲームの道具づくりに取り組むなど、子供と実際に触れ合うための知識や技能をきっそく学んだ。

次回研修会は十二月八日に開催することになっており、楽しみの提供方法、コミュニケーションの取り方などについて理解を深めることにしている。当日参加も可能。

吉野さんは「活動の輪を広げていきたい」と話しており、同活動に興味のある人の参加を歓迎している。問い合わせは富士宮レクリエーション協会・吉野さん（電090-8134-9609）へ。

魚釣りゲームを楽しむ子供たち

日刊岳南朝日新聞より抜粋（2007.11.20掲載）

④今後の課題

平成20年度も「あそびの城」の開催を予定しているが、子どもの居場所だけではなく、大人の居場所になるよう、「あそびの城」自体の周知をこれまで以上に行うことも必要であると感じている。またそれに合わせて、人材確保の方法について関係団体の皆様のご意見を伺いながら検討を重ねていきたい。関連団体との連携をさらに高めていきたい。

第４章

モデル事業の成果

１．効果的な研修プログラム

●「講座の内容」と「現場体験」及び、相互連動の効果

モデル地区報告の通り、研修会は演習を中心とした「講座」と、実際の現場を体験する「現場体験」を組み合わせて実施した。

講座では、まずは子どもたちとの良好な関係を築く「コミュニケーション・ワーク」（子どもの理解、子どもとの接し方）について学習するとともに、子どもたちの興味関心を引きつけ、前のめりな姿勢で活動へ参加してもらう「レクリエーション展開ノウハウ」の演習プログラムを中心に実施した。そして、現場体験では学習したものを活かして自分なりに子どもたちと接したり、既存の指導員の姿を目で見て学ぶ機会となった。

講座と現場体験を連動させることで、具体的な活動場面をイメージできるとともに、そこで必要となる基本的な知識、技術を学び、実際に受講者が子どもたちに活動を提供する際、自信をもって接することができる手助けとなった。

受講後のアンケート結果からも、「子どもたちの姿を見られたこと」、「子どもの視点に立って接する大切さ」、「楽しく遊べた」等、現場体験に対する評価をいただいた。

●「楽しさ」をベースにした仲間づくり

一般的に、ボランティア活動や地域活動は敷居が高いというイメージもあるが、本モデル事業では「楽しさ」を前面に出しながら展開してきた。研修会自体も、堅苦しい研修を行うのではなく、レクリエーション・ワーク等の演習を中心に実施し、研修会自体が居心地の良い場となるよう配慮して実施した。

その結果、見ず知らずの受講者が、2日間の研修終了時には気心の知れた仲間となり、その後の活動にも互いに連絡を取り合うなど、楽しさを媒介にした仲間づくりも生まれた。

ボランティア活動を行うのに研修しなければならないのか、という疑問もあるが、本モデルの研修会は、研修会自体が楽しい空間であり、楽しみながら新たな発見や学びを得る場となっている。始めてボランティアとして活動する前に、少しだけ背中を後押しするといった位置づけとなっているところにも注目したい。

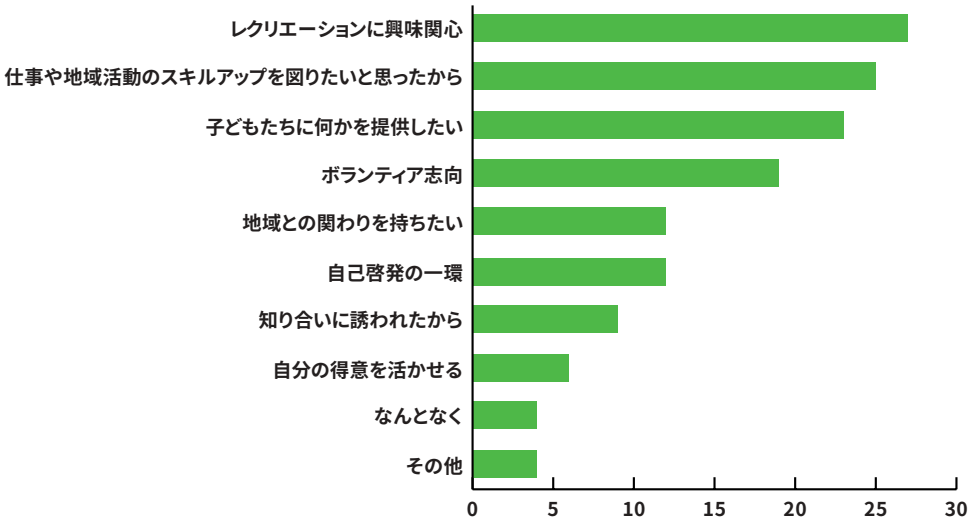
●受講者アンケート結果より抜粋

①参加の動機：ＭＡ

本研修会は、これまでに子どもの居場所づくり等の活動に参加したことがない方を主対象に企画したが、受講前アンケートの「参加の動機」について、受講者59名の内「ボランティア志向を持っていた」（約32%）、「子どもたちに何かを提供したいと思ったから」（59%）というように、ボランティア活動をしたいと考えていた人の割合が高いことが伺える。

また、「レクリエーションに興味関心を持っていたから」（46%）との割合も高く、「楽しく、気軽に参加できるボランティア活動」というイメージを持たれて受講した人が多いと推測される。このことは、研修プログラムに「レクリエーション・ワーク」を盛り込んだ効果と言えるかもしれない。

研修会受講の動機

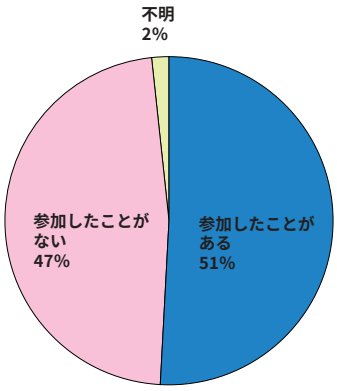


②研修会参加の経験及び地域活動の実施状況：ＳＡ

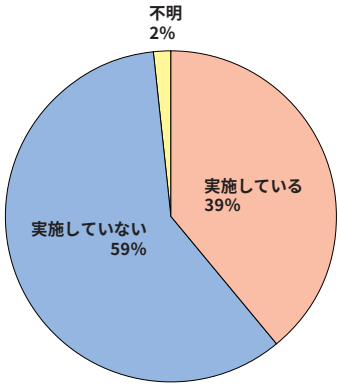
受講者の内、これまでに「こうした研修会に参加したことがない」という人が47%、また「日頃地域での活動を実施していない」という人が59%であった。参加の動機と合わせ、ある程度想定したターゲットの参加を得ることができた。

特に、参加の動機として「レクリエーションに興味関心を持っていたから」と回答した人のうち、過去に研修会に参加したことがない人が約39%、日頃地域活動をしていない人が約46%であったことからも、「レクリエーション」の内容をプログラムに盛り込むことの効果が伺える。

同様な研修等の参加経験（全体）



日頃の活動有無（全体）



③研修会の講座、現場体験で得られたもの

研修会終了時に、受講前に期待していたこと、得られた内容、新たな発見や自信がついた事項についてフリー回答によるアンケートを実施した。

期待した内容の多くは「子どもとの接し方、関わり方」、「子どもとの交流（実際の体験）」、「レクリエーション・ワーク（技術、素材の体験、展開法等）」が占め、概ね研修会でそれらの期待が得られたとの回答を得た。また、現場体験では「知らない子どもたちと自然に遊べた」、「年齢を気にせず遊べた」、「楽しかった」という率直な感想も得られた。

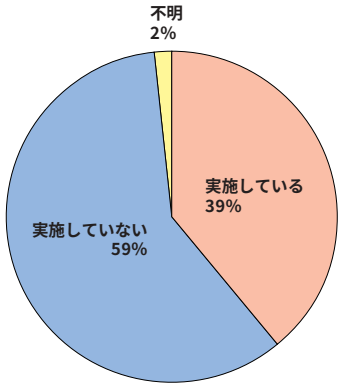
特に子どもたちとの接し方や、信頼関係、一体感を得る方法として「アイスブレーキング」の技術に対し、高い評価を得た。子どもたちにとって、見知らぬ大人といきなり遊ぶには抵抗があるが、その緊張感をちょっとしたコツで解きほぐす方法が「アイスブレーキング」であり、即戦術として期待されている。

④今後の活動への参加の意向

同じく受講後のアンケートでは、今後の教室へのボランティア参加について、「参加を希望しない」という回答はわずか2%、希望するとの回答が51%、残りは検討中との回答であった。

検討中との回答が5割弱あるが、その理由としては「時間的な都合」等を上げていた人が多い。前出の日頃の「地域活動を実施していない」という人（受講者の59%）の理由として、「時間がなかった」が60%おり、時間的な都合がつけば参画してもらえる人材として受け止めたい。

日頃の活動有無（全体）

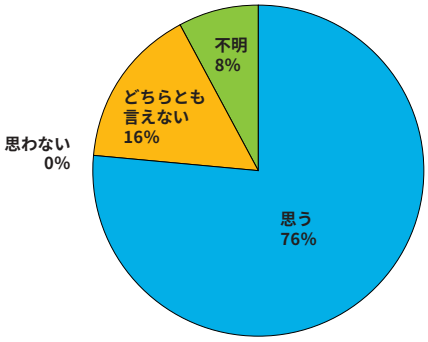


⑤本研修会を知り合い等に広げたいと思うか

約76%の受講者から、知り合いにこの研修会を紹介したいとの回答を得た。研修会を評価すると100点満点で何点かという質問も行ったが、主催者への配慮からか高い数値の回答をいただいており、そのことで研修会の評価を行うことは難しい。しかし、他の人に紹介したいという回答については、それ相応の評価材料として見ることができるのではないかと考えられる。

今後実施する研修会に、さらに多くの人に参加いただき、教室を支えるメンバーとなっていただくことを期待する。

知人等への今後の勧誘について（全体）



まとめ

以上の点より、モデル地区の研修会プログラムが一定の成果が得られたものと判断し、放課後子ども教室の立ち上げの際の人材確保や、より多くの人材の関わりを進める手段として、本モデル事業の活用が期待される。

2．新たな人材の確保と多様なプログラム提供

①研修会を通して加わったメンバー

各モデル地区の取り組みは、放課後子どもプランによる展開のように広く認知された取り組みではなく、草の根的な小さなアクションである。しかし、研修会を通して継続的に関わる数名の人材を確保することができた。

新たに加わった人材としては、団塊世代、現役の保育士、学生ボランティア、保護者（主婦）など多様である。団塊世代はもちろん、保育士または教員を目指す学生、あるいは現役の保育士など、今後のターゲットとして期待したい。

②研修成果を活かした現場（教室）での活躍

放課後子ども教室の中で、受講者は既存指導員とともに、萎縮することなく、子どもたちと一緒に遊んだり、自分の得意な活動を提供するなど、自身も楽しみながら活動に参加されていた。

研修会で現場体験を行い、ある程度子どもたちとの接し方にも慣れたことによると推測できる。

③新たな人材による効果（子どもたちの体験メニューの豊富化、子どもの喜び）

様々な得意（スポーツや文化活動、あるいは職歴等）を持った人材が集まれば集まっただけ子どもたちへの体験メニューを豊富化することができる。研修会を通し、新しく加わったボランティアが新しい活動や遊びを子どもたちに提供した結果、子どもたちのアンケート結果からは「緊張した」との回答もあったが、「新しい遊びを教わって楽しかった」、「もっと多くの大人に来て欲しい」とのプラスの回答を得た。

また、モデル地区の１つである秋田市八橋地区では、研修会に多くの学生が参加したが、子どもたちにとっては年齢が近い「お兄さん」「お姉さん」の存在は大きく、思いっきり遊んだり、時には甘えたりする姿も見られた。

力持ちのお兄さんとじゃれあう子どもたち（秋田市）

④保護者の声

保護者のアンケート結果からも、受講者に対して「研修成果が現れている」との回答を得るなど、プラス面での評価を得た。保護者の中にも、新たに加わったメンバーに触発されてか、子どもたちと一緒に活動に参加する方も表れた。

まとめ

今回の研修会は、自主的に展開する子どもの居場所づくりの主体が主催し、各市教育委員会に後援をいただき実施した。今後、こうした研修会を地方公共団体との協働事業として実施することで、いわゆる社会的な信用性が得られ、さらに多くの人材を確保できると考えられる。

3．ボランティア自身の喜び

①やりがい（主体性の発揮）

本モデル事業では、ボランティアに大切な「気軽さ」、「非強制」、「楽しさ」などを充足しながら関わる道筋を描いて実施した。やりがいを得るためには、義務感だけではなく、主体性を発揮できる関わりをつくる必要があると思われる。研修会受講後の活動では、それぞれの得意とする活動を子どもたちに提供する場面を設定した。そのことで、新たにボランティアとして関わっていただく方に、それぞれのやりがいを獲得していただいている。

別の見方をすると、報酬が得られるからではなく、やりがい（楽しさ）が得られるから関わるという姿と見ることができるのではないか。

②受講者アンケート結果抜粋

これまでに、こうした研修会に参加したことがないという人が47%、また日頃地域での活動を実施していないという人が59%であったが、その理由としては、「きっかけがなかった」、「そうした機会を知らなかった」との回答が多数であった。

今回はそうしたニーズの一部に応えることができたと言えるが、放課後子ども教室に関わりたいと考えている人に、楽しさをベースとした研修機会などのきっかけをいかに与えていくか、またそうした機会の情報をいかに伝えていくかが今後の課題となる。

まとめ

放課後子どもプランの推進には地域教育力の向上も重要な要素となるが、既に実績を上げ取り組まれている自治会やPTA等、青少年育成機関・団体とは別に、より多くの地域住民の参画が望まれる。個人レベルでボランティアとして参画するには、個々の主体性が発揮できるような関わりをいかにつくるかが求められる。

義務感や使命感だけでなく、気軽さ、楽しさを得ながら個人レベルで参画できる方法論として、本モデルの活用を期待したい。

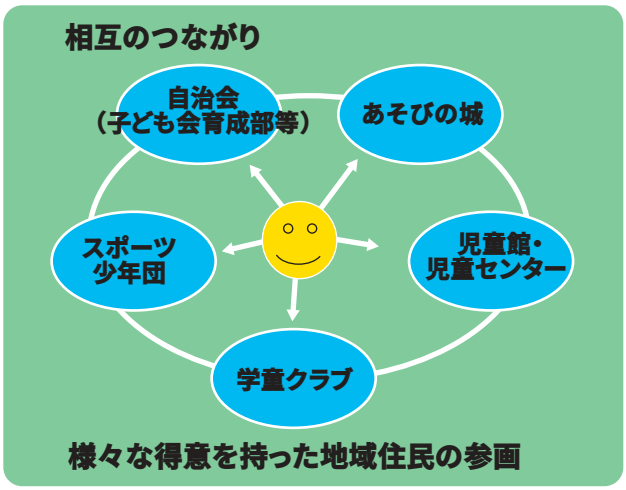
4．安定した運営

本モデル事業では、より多くの人材の参画により、安定した教室運営を図ることをねらいの１つとして実施した。子どもの居場所づくりに取り組みたいという意思を持った人が、数名のグループでアクションを起こす際、参画者を1人でも確保することの意義は大きい。モデル地区の１つである山梨市日下部地区では2人で教室を立ち上げ、苦労しながら展開してきた。こうした小さなアクションが、将来的に放課後子ども教室の主要部分、または一翼を担うこともある。教室を立ち上げたいと考えている有志グループ、あるいは立ち上げたばかりの地域において、最大の課題の１つである人材確保については、本モデルの活用を期待したい。

5．地域の様々な団体、機関との連携

放課後子ども教室を展開する上で、地域の様々な機関・団体との連携は欠かせない。本モデル事業では、団体との連携促進の視点ではなく、個人レベルでの参画促進モデルとして展開してきたが、それらの取り組みを地域の関係団体、関係者に告知し、報告会（地域ミーティング）を実施した。

今後の方向性に関する意見交換では、やはり行政始め自治会、様々な団体との連携の必要性を指摘する声が上がった。個人のやりがいを引き出しながら仲間の輪を広げる今回の手法は、地域の様々な趣味グループ、スポーツ・文化団体等に所属する会員にも活用できる。団体と連携しながら、団体を通じて個々の会員に働きかけ、教室を支える人材としてそれぞれの得意を発揮しながら活躍いただくことを期待したい。



※補足

地域子ども教室推進事業により、新たな子どもの居場所づくりとして3カ年実施してきた地域子ども教室が、平成19年度より放課後子ども教室となり、財源確保に苦慮して中止せざるを得ない教室が出た一方、活動の重要性、子どもや保護者の要請に応え、自主的に展開する教室も多数ある。その多くはボランティアによって支えられている。

その原動力は、使命感もあるが、3つのモデル地区に共通して言えることとしては、やりがいであり、楽しさである。とはいえ、無理が生じれば中止あるいは縮小を余儀なくされる。活動を継続、拡大するには、財政的な面もあるが、やりがいや楽しさに支えられて共に活動するより多くのボランティアの存在である。

やりがいや楽しさにより支えられるボランティア確保の試みを広げられれば幸いである。

第５章

事業推進委員会総評

１．事業推進委員会の議論のポイント

●第１回事業推進委員会

日　　時	平成19年10月28日　15:00～17:00
場　　所	国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟　501研修室
議　　題	１．本事業の概要（事業計画）と、事業推進委員会について ２．放課後子どもプラン（放課後子ども教室）の実施状況について ３．放課後子ども教室の自主、自立に必要な要素について ４．放課後子ども教室を支えるボランティア獲得策及び、継続的な関わり方について

地域子ども教室から放課後子ども教室へ

○事業に予算がついているから実施するのではなく、地域の課題、ニーズに参画していく姿勢が必要。もちろん財源があるに超したことはないが、ないからやめるという考えはよくない。

○総合型地域スポーツクラブもそうであるように、１／３の予算措置をするとなると行政は手を挙げづらいというのが実情かもしれない。継続性を持たせるしくみが必要。

○放課後子ども教室によっては、指導員には謝金が支払われるが、ボランティアは無償というケースもある。それでもその教室のボランティアは喜んで参加していただいている。自分たちの活動を多くの子どもたちに知ってもらい、楽しんでもらう姿がうれしいという。

○お金に頼らず、主体的に関わることで得られるやりがいや生きがいにつながるボランティア研修会をどう仕組んでいくかが課題。人件費に多額の経費をかけざるを得ないこともわからないではない。

教室の運営を支える人材の確保

○1人で子ども100人を相手にしている教室があることに驚く。ボランティアを増やすことが急務。

○学生ボランティアにも期待したいが、学生の本音はボランティアよりアルバイト。若者の地域離れに歯止めをかける必要がある。4年間大学で学び、その後地域に帰る学生が、地域で出番が得られるような地域プログラムを在学中に体験することは重要。

○研修会はいらいないという意見もあるが、長年ボランティア活動を行っている人は、新しい人を認めたがらない傾向がある。研修を受け、前向きな姿勢を見せた方が受け入れやすくなるかもしれない。

研修プログラム

○レクリエーションは人間づくりであり人間関係づくり。子どもたちに何かしたい。みんなで何かするという体制づくりにも役立つ。「楽しい」があることが重要。

○社協もボランティア研修会を開催しているが、レクリエーション協会にも協力要請がある。いわゆる「レ

クリエーション」は地域で必要とされている。

○重い話をする前にアイスブレイクしたり、クイズを出したりするなど、関心のない人に遊び心を加えながら働きかけ、他人事ではないよう訴える方法が大切。

●第２回事業推進委員会

日　時	平成20年2月17日（日）　14:00～16:00
場　所	（財）日本レクリエーション協会　会議室
議　題	1．モデル地区の取り組み報告 2．事業評価に関する事項 3．放課後子ども教室の自主、自立に向けた方向性 4．放課後子どもプランを推進する上での課題 5．地方公共団体向け報告書に関する事項

研修会プログラムへのレクリエーションの活用

○3地区の報告、参加者アンケートを見たが、「あそびの城」というネーミングと活動内容の理解がどの程度地域に周知されているのか。まずはそれぞれの地域性の認識が必要。地域組織（自治会、社協、コミュニティ、民生委員、等）組織の中で、レクリエーションの遊び技術のみを導入するのであれば、なかなか認知は広がらない。

○児童館の職員研修にレクリエーションを入れるとよい。ある地域では子ども課、社協と共催で5回シリーズの研修会を開催し、職員58名が参加した。今回の研修会をもっと児童館等の職員研修に取り入れてもらえるようアピールしても良いのではないか。

学生ボランティアについて

○学生にとって、総合的学習の実践の場が地域にある。子どもにとっては、学生の存在は提供技術うんぬんより年代が近いことでの親密感（ニーズ）がある。

○地域福祉の課題は子どもに重点がおかれつつあることを知る必要性がある。学生が活躍できるフィールドがあれば、モデル事業と合致できる。

放課後子ども教室（子どもの居場所づくり）に重要な視点

○重要なことは、地域の人たちに学校に足を運んでもらうこと。地域には色々な人がおり、子どもたちが学校や家庭で学べないことや体験できないことを経験することができる。その中で、地域の大人との挨拶や会話を通し、地域全体で子どもを育てる意識がつくられる。

○教室の運営母体を地域の各団体の加入（団体登録）で行うと形骸化してしまう。思いを持った個人を大切にする必要もあるのではないか。

○地域の人に取り組んでいただくには、行政側から指図するのではなく、主体的に関わってもらうことが重要。型にはめたら人は去ってしまう。

自主的に展開する子ども教室

○多くの教室が子ども集めに苦労している。しかし、子どもが集まる所に出向く方法もある。集まる所と協働で実施する方向を検討しても良い。モデル地区でもそのような方向が出ている。

○自主的に展開する教室は、必ずしも放課後子どもプランでの実施を目指す必要はないかもしれない。行政側のプラン実施如何に関わるので、自主的な継続を模索しても良い。

その他

○モデル事業でも参加者の男女比を見ると、女性８割、男性２割という一般的な数字となったようであるが、男性の出番を「あそびの城」へ誘導する方向を検討しても良い。男性の居場所づくりのサロンなど。

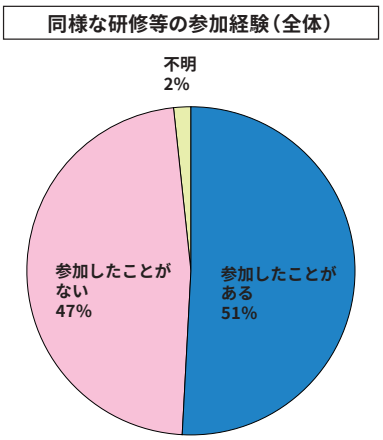
２．モデル事業実施地区　受講者アンケート結果～抜粋～

本モデル事業実施地区は、それぞれボランティア研修事業を実施する際、事前及び事後等にアンケートを実施した。

ここでは、本モデル事業の評価を行う上で、参考となる結果を抜粋し、紹介する。

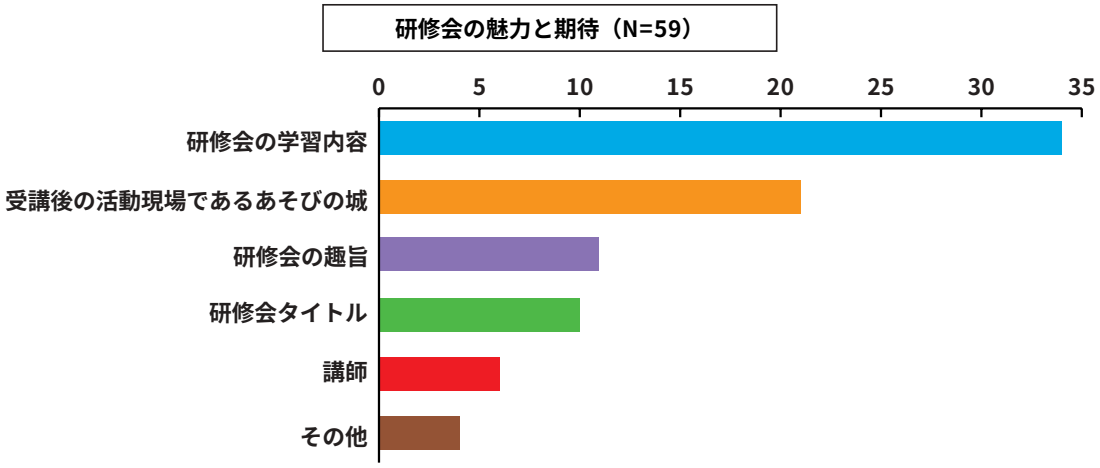
①研修会受講の動機（N＝59　複数回答）

「レクリエーションに興味関心」、「仕事や地域活動のスキルアップ」の動機が高い結果となった。レクリエーションの技術が仕事や地域活動等に活かせることから、受講を希望した方もいるかもしれない。また、「子どもたちに何かを提供したい」、「ボランティア志向」、「地域との関わりを持ちたい」という動機で受講された方も多い。「楽しさ＝レクリエーション」と「ボランティア志向」により受講した人が多いと推測される。



②本研修会のどこに魅力を感じたか、または何に期待しているか（複数回答）

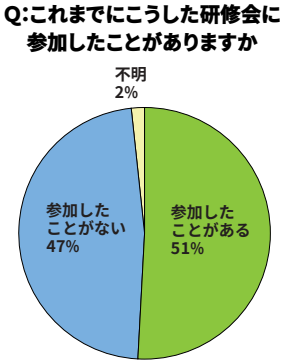
「研修会の学習内容」の期待が最も高い。子どもとのコミュニケーションのとり方についてレクリエーションの技術を活用して提供する内容に対するニーズが伺える。また、『受講後の活動現場である「あそびの城」』が次いで高く、「あそびの城」（子どもの居場所づくり）自体の魅力も伺える。

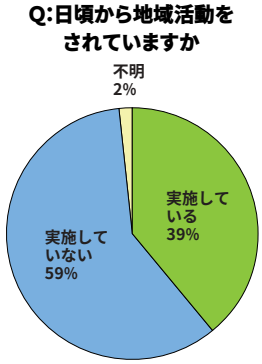


③これまでに同様の研修会に参加したことがあるか／日頃地域活動を実施しているか

今回、研修会等に参加したことがない人（5割弱）、日頃地域活動を実施していない人（約6割）の参加を得た。初めての地域デビューという人も多く、本事業の成果の１つと見ることができる。

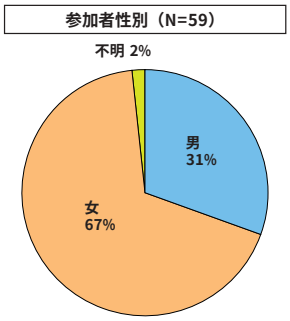
「地域の役員を引き受けて」、あるいは「知人に頼まれて」といった関わりでボランティアに参加するのではなく、自主的な参画を進めるモデルとしても注目したい。





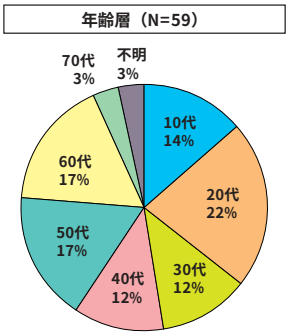
④参加者の性別

男女比では、女性が約7割、男性が3割であった。モデル地区では学校の休日（土日）に教室を開催していることもあり、職を持った男性の参加も見られた。



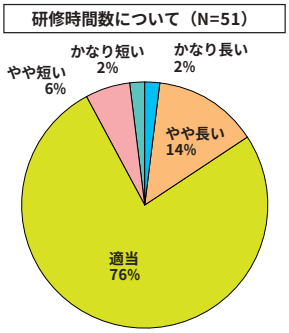
⑤参加者の年齢層

10代、20代の割合が高いのは、学生ボランティアによる。保育士課程、教員課程を履修する学生にとっての活きた学習の機会となるとともに、秋田地区の事例の通り、子どもたちにとっての効果にも注目したい。また、団塊世代である60代の参加も注目される。



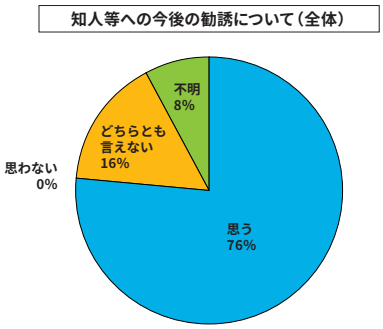
⑥研修時間数について

3モデル地区とも、2日間で約10時間の研修（現場体験を含む）時間を設定したが、概ね適当との回答を得た。長い、やや長いとの回答については検討課題として受け止める必要がある。



⑦本研修会への参加を知り合いに勧めたいと思うか

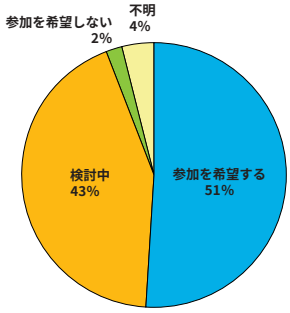
受講者の76%から、知り合い等に進めたいと思うという回答を得た。本研修会への受講者からの評価として受け止めたい。



⑧今後のあそびの城（子ども教室）への参加を希望するか

約半数の受講者から活動を希望するとの回答を得た。また、ほぼ同数から検討中（日程や時間的な都合による）との回答もあり、できる時に関わっていただくという形で、緩やかなつながりをつくりながら、仲間の輪を広げていくことも重要だと思われる。

今後の「あそびの城」への参加希望有無（全体）



期待した内容

・遊び方のノウハウを学びたい
・コミュニケーションのとり方を学びたい
・アイスブレーキング
・子どもたちと交流、ふれあいを図る
・自分のスキルアップ（レクリエーションのノウハウの獲得）
・プログラム企画と運営について
・現場体験、など

遊び方、コミュニケーションの取り方など、プログラムの素材自体の展開方法や対象へのアレンジ方法などのニーズが多く寄せられた。

研修会で得られた内容

・子どもたちとどのように接したらよいか知ることができた
・アイスブレーキングはとても大事であると、実際子どもの立場になって感じた。
・ふれあい、コミュニケーションを得たこと
・クラフトなどの工作あそびからゲーム的なあそびへ発展させるプログラム展開の可能性
・レクリエーションを行うにあたり、まずは雰囲気作りをすることが大切だと学んだ
・人を引きつけたり、笑顔にさせる話し方
・相手の気持ちを理解し、気遣う心も大切だと学んだ
・レクリエーション協会の活動状況について知ることができた、など

実際に体験した後の意見として、「子どもたちとの接し方についてのノウハウ」に関する意見が多く見られた。あわせて、アイスブレーキングやコミュニケーションワークなどのプログラムについて、参考になる面が多々あったようである。

研修会の中で、新しい発見や、自信がついたものがありましたか

・子ども（相手）とのふれあい、接し方
・コミュニケーションすることに自信がついた
・ささいなものからいろいろな遊びができるということ
・自分が持っているものをどのように提供出来るか考える機会となった
・プログラムの多様性
・子どもたちを引きつける話し方や間の取り方
・応用できるゲームの楽しさ、など

子どもとの接し方への意見が多く寄せられた。研修会で得られた知識をすぐに実践できる場があったことがこうした効果が得られた要因ではないかと考えられる。プログラムの展開方法についても身についたようである。

現場体験の良かった点

・子どもの視点に立って接することが大切だと学べた
・アイスブレーキング、プログラムでの導入の持って行き方など
・たくさんのレクリエーション（アクティビティ）を教えていただいた
・子どもとのコミュニケーションのとり方が分かった
・スタッフとのふれあい、改善面、配慮点をしっかりと指摘してもらえて参考になった
・子どもに対しての指導方法
・導入から展開していくことを学んだ
・年代関係なく楽しめた
・講座で他の人たちと知り合うことができた（今後のネットワークの連携を図りたい）、など

子どもとの接し方の重要性、プログラムの導入から展開方法など、実際に体験して実感したことが多くあった。また、スタッフや参加者同士間とのコミュニケーションなどへの意見も寄せられた。

第６章

事例からみる将来像

１.事業モデルの活用へ向けて

①地域の可能性を広げる事業モデル

放課後子ども対策における最大の目的は、子どもが安全で安心して健やかに過ごせる場、子どもの成長や様々な体験の機会につながる場をつくることである。しかしながら、数名の人材の関わりのみでは厳しく、多様な体験の機会を提供することや安全で安心し過ごすためにも大勢の人材、多くの目が必要になる。そして、それらを通じて、地域の教育力を向上させていくことが求められている。

本事業モデルでは、そうした多くの目、多くの人材を結集させるための取り組みを検証してきた。地域にいる多様な思いや技術を持った人材、たとえば、子どもたちのために何かしたいと思っている人、高齢者のために何か関わりたいと思っている人、地域で何かしらボランティアに関わりたいと思っている人、退職した教員、技術や技能を持ち合わせた団塊世代の人、子育てを終えた主婦などが、放課後子ども対策に関心を持ち、子どもたちの健全育成に関わりを持てるようになれば、地域にある様々な社会的な課題へも貢献することができるようになるのではないか。

今回実施した3カ所のモデル地区以外でも、様々な地域の社会的な課題へ向けた貢献活動として展開している「あそびの城」がある。以降、本事業モデルを活用した場合の６つのケース・スタディを紹介する。

キーワード	活動分野	事例	関わる人材（一例）
地域活用	伝統文化体験	ケース・スタディ①　p48参照	専門家
環境教育	自然体験	ケース・スタディ②　p49参照	趣味活動サークル
体力向上・健康づくり	スポーツ・運動	ケース・スタディ③　p50参照	学生ボランティア
高齢者の生きがいづくり	昔あそび	ケース・スタディ④　p51参照	高齢者
コミュニティ振興	ものづくり	ケース・スタディ⑤　p52参照	地域住民
「食」の教育	料理体験	ケース・スタディ⑥　p53参照	子育てを終えた主婦

2 秘められた多様な可能性

ケース・スタディ 1

はじめての お作法体験

はじめての正座。そして、はじめて口にする抹茶や和菓子。いつもは騒いでいる子どもたちが、今日はおとなしく緊張気味。

「あそびの城」では、多種多様な活動が、楽しく展開されている。その展開を可能にするのが、地域の得意を持った人材の存在だ。地域には、それぞれの趣味や特技を持った多様な人材がいる。この「あそびの城」では、茶道の先生が関わり、子どもたちへお茶の作法を手ほどきするプログラムが行われた。普段は正座などしたことのない子どもたちが、この時ばかりは背筋を伸ばし、膝に手を置く。そして、次は私、と待ちきれない様子で湯飲み茶碗が回ってくるのを待つ。地域の人材を活用して、日本の文化伝統に触れた良い体験が子どもたちに提供された。

こういった活動を展開する背景には、レクリエーションの学習を履修した方々、レクリエーション・インストラクターの活躍がある。地域には多様な人材がいるが、地域の方が子どもの成長につながる場としてより多くの効果を生み出すためには技術が必要になる。本事業モデルのような研修会の機会を設定することで、自分の趣味や特技を活かして関わることができ、地域の人材を活かし、子どもたちにとって貴重な場を提供していく可能性が増えるのではないか。

ドキドキ・ワクワクのお作法体験

ケース・スタディ 2

はじめて触れる 魚の感触

捕ったぞ！と、はじめて魚を手にした。顔がこわばる一方、手つきは優しい。そこには魚の温もりや鼓動が響く。命を手にした子どもは、ためらいの中でも命を認識する瞬間である。

自然との触れあいは、子どもの心の成長ばかりか、体力や筋力の向上、自然を育む意識が芽生えるなど、その効果は多きい。そこには、いつでも楽しさがあふれている。そんな「あそびの城」では、自然を舞台に、様々な自然体験活動を展開している。

竹を切るところからはじまる流しそうめんや、鎌を持って手作業による稲刈り体験。このような野外の体験活動が、安全で安心して過ごすことが出来るのも、レクリエーション・インストラクターの配慮による。自然とうまくつきあい、貴重な体験の場を提供する。そして、自然を大切にする気持ちや地域の自然を見直す機会にもなっている。

一方、プログラム提供者側であるスタッフは、なによりも自然が好きな人たちでもある。自分が自らやっていること、やってみたいことなどを企画して、子どもたちと一緒に楽しんでいる。地域の自然のことは、地域の人に聞くのが一番である。そんな、趣味、趣向をいだく方へも、本事業モデルをうまく活用することで、地域の人材を結集することができるのではないか。

自然の中にいる子どもたちは皆イキイキしている

ケース・スタディ 3

はじめての挑戦 ニュースポーツ

ゴルフ？ボーリング？なんだこれ、と首をかしげる子どもたち。教室の床にシートが敷かれ、子どもたちの視線を一挙に集めた。これは、ゲーゴルゲームというニュースポーツ。しかし、そんな名前なんかは気にしない子どもたち。とにかくやりたくてしょうがない。ニュースポーツの醍醐味は、勝敗を競うということよりは、みんなで、体を動かしながら楽しくスポーツすることである。

近年、外遊びの機会が低下してきていることなどから、子どもたちの体力低下や体の弱体化が進んでいる。このような、ニュースポーツは、誰もがやりたいという思いにさせ、プレーしているうちに、自然と体力づくりにもつながる。また、年代を超えて一緒に遊べることなどから、スポーツを通じて異なる世代間の交流が行えるのもメリットである。

レクリエーション協会には、こういった多くの生涯スポーツ種目が加盟してくれている。多様なネットワークを活用しながら、それぞれの種目の指導者を招くことで、活動の幅が広がる。様々な団体とのネットワークを結ぶことで、スタッフも楽しい体験の機会を得ることができる。さらに、種目団体の指導者がレクリエーションに触れる機会でもある。地域の方にとっては、レクリエーションとニュースポーツの種目を一気に学べるチャンスでもある。そんな、みんなが喜ぶパートナーシップを結んだ事業モデルのアレンジも可能である。

はじめてのスポーツに興味津々

ケース・スタディ 4

はじめての昔あそび体験

けん玉、めんこ、お手玉、ビー玉、凧揚げ、竹とんぼ･･･。今の子どもたちは、どれくらいの遊びが出来るのだろうか。いざ道具をならべると、我先にと得意なものを手にする。意外と上手いことに驚く。しかも、それなりの知恵がある。相手の顔色をみては駆け引きをしたり、駒の重心を変えて安定させたりしている。外遊びが減り、昔あそびで遊ぶ体験が減ったのではないかと思うが、そうではないようだ。

「あそびの城」では、そんな昔あそびを作る過程から楽しんでいる。地元のおじいちゃんに習い、竹籤と和紙を使って凧を作り、思い思いの柄をつける。そこにもひとつの遊びが成立する。お手玉であれば、地元のおばあちゃんに用意してもらった端切れ布を使って小豆を詰めていく。こんな交流からは、お互いを思いやる気持ちが芽生えてくる。おじいちゃんってすごいね。おばあちゃんって起用だね。そんな会話が、高齢者にとっての生きがいづくりへとつながっていく。

今回の事業モデルでは、こういった方などを上手くコーディネートするための技術を学ぶ学習を中心に実施した。起承転結という「あそびの城」プログラムのスタンダードモデルとして提唱しているものだが（詳しくは、6章コミュニケーションワーク参照）、ここでは、昔あそびの活動メニューは「転」という段階に位置する。「起承」については、子どもたちが昔あそびをする上で、安全で安心した場を過ごすことが出来るような雰囲気づくり、仲間との関係づくりなどを行う。いわば、レクリエーション・インストラクターの最も得意とする部分である。

地域に「転」を実施する良い人材はいるが、うまく雰囲気づくりや関係づくりができないという場合、本事業モデルを活用し、地域の人材をより効果的に活用できるのではないか。

昔のあそびに夢中になる

ケース・スタディ 5

はじめて知ったお餅づくり

大きな穴の空いた重たい木と不思議な木の棒を目にした。おじちゃん、今日は何するの？と子どもたちから声をかけられ上機嫌。自分たちの背丈くらい長い杵を振り下ろす。腰に力をいれろ、とおじちゃんの怒声が響く。地域祭りに「あそびの城」として参加した時の様子である。

近頃は、こういった地域で交流する機会が減ってきているように感じる。まして、大人が怒声で子どもに話す機会が少なくなっているようにも感じる。決して怒っているのではない、安全に配慮しての優しさでもある。それを子どもは感じている。そこには、信頼関係が備わっているから出来ることなのかもしれない。このような、暮らしの知恵を教えてもらう機会がめっきり減ってしまった。どちらも嬉しそうな真剣なまなざしで没頭する。突き上がった湯気の出ているお餅をと正月に食べるお餅がイコールで結ばれた瞬間であった。

このように、「あそびの城」は、時には街に繰り出し、地域との交流をする機会も設定している。地域行事は大人の居場所でもある。大人が集い楽しむ空間に、子どもを巻き込み交流する。そこから新たな地域の教育力が結集するのである。「あそびの城」を例にとり、放課後子ども対策における、子どもの居場所づくり事業を通じた展開の一事例ではあるが、大いなる可能性を秘めていることに気づく。地域コミュニティの再編へ寄与する事業として、まずは大人が集い楽しむ空間というのも重要な存在である。本事業モデルでは、そんな大人が集い楽しむ空間としても捉え、大人の趣味、得意などを集めるために研修会、地域ミーティングを開催した。本事業モデルを活用し、そんな大人の居場所づくりを進めてみても良いかもしれない。そこから、自然と子どもの楽しむ空間も出来てくる。

食べることの楽しみは大人、子ども関係ない

ケース・スタディ 6

はじめて覗くおふくろの味

いつもであれば、お母さんお腹減った、と口にする子どもたち。料理体験では、母親から料理を教わる。よく考えれば、おふくろの味をはじめて習う機会なのかもしれい。手を切らないように注意してね！ちゃんと手元を見ながら切りなさいよ！刃物は端におかないの！調理室からこだまする母親の歓声である。はじめて包丁を使う高学年の子どももいる。一方、しっかり包丁を握れない低学年の子どももいる。料理には刃物が不可欠であるが、危ないからダメ、危険だからやめましょう、ということはない。今ここで教えておかないといけない。多少きつい言葉だってしょうがない。手を切らないようにとの指導から、刃物の使い方を習う。手にした食材から、野菜の形や魚の形を知ることが出来る。普段はニンジンが嫌いな子でも、自分が切ったニンジンであれば、なぜだか食べてしまう。子どもたちの手に触れると、特性スパイスが振りかけられているようだ。おいしいご飯を食べることですべてが楽しい思い出になっている。

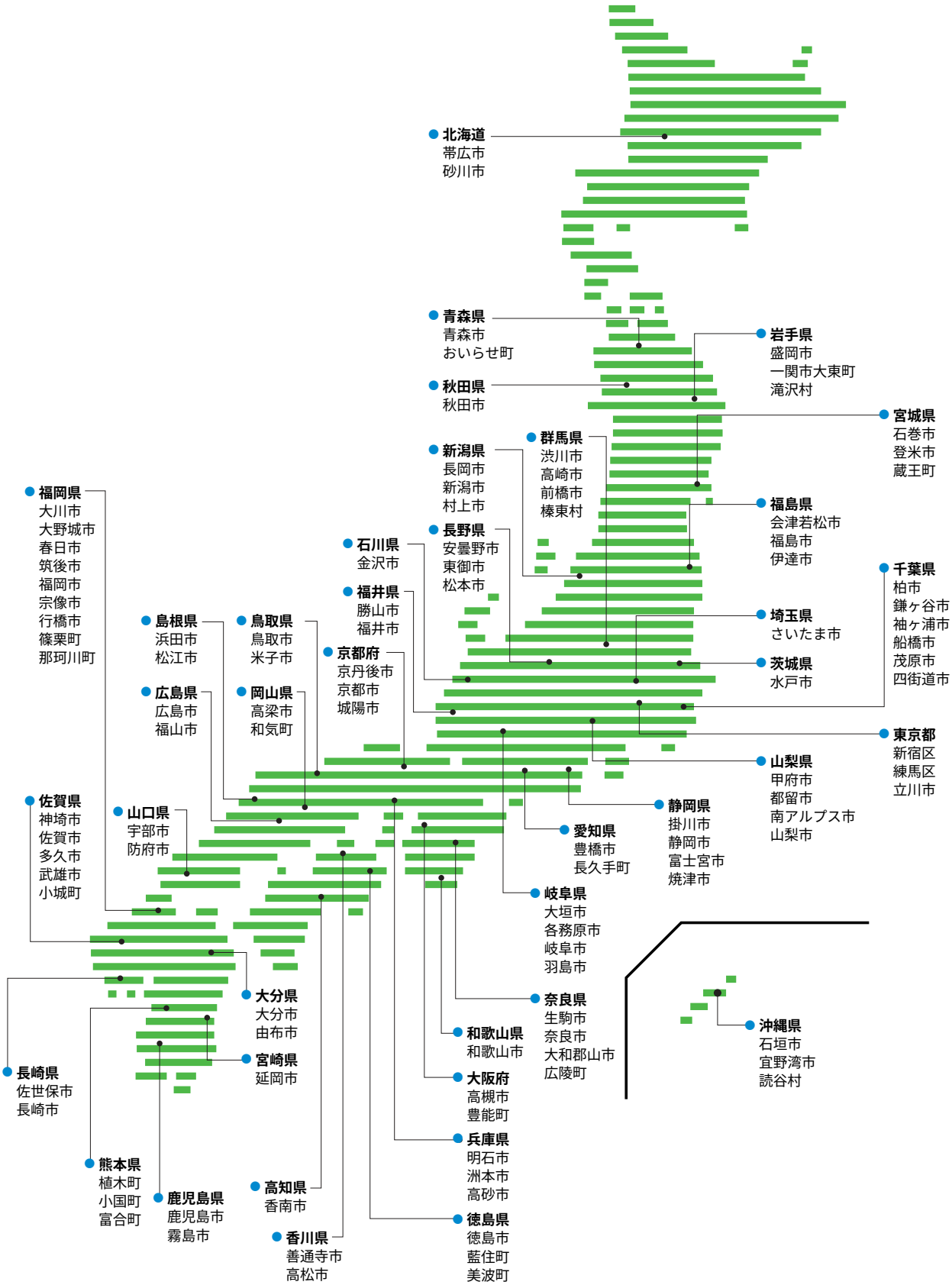
「あそびの城」では、食育に必要な３つの体験の機会が用意されている。まずはみんなで楽しみながら食事を取ること。次に、自分たちで食物を育てて収穫すること。そして、自分たちで料理をすることである。こういった「食」の教育活動を展開していくためには、やはり地域の協力は欠かせない。多くの人を結集することで、地域教育力が向上する。そこに、母親（主婦）の存在は欠かすことが出来ない。母親が活動に関わりやすいプログラムも料理体験ではないだろうか。

誰しも自分ができることであれば、率先して提供ができる。多くの人が関わるには、個々の主体性が発揮でき、負担がないよう配慮する必要がある。言い換えるのであれば、負担を負担と感じない工夫が必要になる。主婦同士の悩みを話す場、主婦友達が出来る場、そして、顔が見える地域づくりへ向けても、本事業モデルを活用して呼びかけることが可能となる。

料理って大変だね
いつもありがとう、と感じる子どもたち

「あそびの城」MAP

最新情報は、あそびnet（http://asobi.recreation.jp/castles/index.html）の全国「あそびの城」マップをご覧ください。



実施都道府県	実施市町村名	実施場所　実施時間帯　開催曜日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 問い合わせ先　郵便番号　住所　TEL　FAX　E-mail
北海道	帯広市	帯広市若葉小学校　（平日）14:30～16:00・（土日祝）10:00～12:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉「若葉あそびの城」又は「帯広市役所こども未来部青少年課」　080-0028 北海道帯広市西十八条南5丁目14-2　0155-33-8378（田中）　0155-65-4162（市役所）
	砂川市	砂川市地域交流センター「ゆう」北光竹の子ホーム　15:00～17:00 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉滝川レクリエーション協会　073-0125 北海道砂川市宮城の沢44番地医療法人砂川慈恵会病院内　0125-54-2300　0125-54-2303
青森県	おいらせ町	おいらせ町北部児童館みらい館　10:00～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉青森県レクリエーション協会　038-0031 青森県青森市三内字沢部191-1　青森市中央市民センター三内分館内　017-766-0264　017-766-0264　aomoriken-reku@ksh.biglobe.ne.jp
	青森市	泉川小学校視聴覚室　16:00～18:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉泉川子どもあそびクラブ　030-0943 青森県青森市幸畑一丁目26-11若松方　017-738-3108　017-738-3108
岩手県	一関市大東町	摺沢公民館周辺　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉大東町レクリエーション協会（松川）029-0523 岩手県一関市大東町摺沢31-7　0191-75-2330　0191-75-2330
	盛岡市	盛岡市見前地区公民館・ふれあいランド岩手等　9:30～11:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉盛岡市レクリエーション協会　020-0836 岩手県盛岡市津志田西2-14-1アディーン103号　019-639-4124　019-639-4124　furikko@lapis.plala.or.jp
	滝沢村	小岩井第2公民館　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉滝沢村レクリエーション協会（柳村）　020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢大崎262-1　019-688-1936　019-688-1915
宮城県	石巻市	石巻市飯野川子そだて支援センター、ビッグバン等　9:00～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人宮城県レクリエーション協会　981-0913 宮城県仙台市青葉区昭和町ネオプラザ北仙台429号　022-718-0951　022-718-0952　rec@miyaginet.com
	登米市	林業総合センター、津山公民館　9:20～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人宮城県レクリエーション協会　981-0913 宮城県仙台市青葉区昭和町ネオプラザ北仙台429号　022-718-0951　022-718-0952　rec@miyaginet.com
	蔵王町	蔵王町立平沢小学校・平沢地区公民館　9:00～13:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉蔵王町レクリエーション協会　989-0701 宮城県刈田郡蔵王町宮字新大除408番地　090-8926-1120
秋田県	秋田市	市立八橋小学校　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉秋田市レクリエーション協会　010-1654 秋田県秋田市浜田滝ノ元7　018-828-6647　018-828-6647
福島県	福島市	福島市立福島第一小学校　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉福島市レクリエーション協会　960-8134 福島県福島市上浜町3-41-301　024-523-3037　024-523-3037　infof@fuku-rec.net
	会津若松市	会津若松市東公民館と東山小学校校庭　14:00～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：中村　965-0801 福島県会津若松市宮町7-44　0242-38-3545　0242-27-2338
	伊達市	伊達市梁川農村環境改善センター　9:30～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉梁川町レクリエーション協会　960-0741 福島県伊達市梁川町字大町2-42-1　024-577-3593　024-577-3593
茨城県	水戸市	水戸生涯学習センター　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉茨城県レクリエーション協会　310-0054 茨城県水戸市愛宕町4-1　水戸生涯学習センター内　029-300-6077　029-300-6078　ibarekyo@beach.ocn.ne.jp
群馬県	前橋市	前橋市宮城小学校　9:00～12:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉宮城スポーツクラブ　371-0245 群馬県前橋市市之関町530　027-283-0784　027-283-0784　miyagi_sports_club@mbp.nifty.com
		前橋市立桂萱東小学校　（平日）14:00～16:00・（土日祝）9:20～11:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：青木　379-2154 群馬県前橋市天川大島町85-14　027-261-4771　027-261-4771
	榛東村	榛東村楽集センター他　15:00～17:00 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉榛東村教育委員会社会教育課　370-3502 群馬県北群馬郡榛東村山子田797　0279-54-2765　0279-54-8226　s-kyoiku@vill.shinto.gunma.jp
	高崎市	高崎市立金古南小学校体育館、校庭　15:30～17:00 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉群馬地区「あそびの城」　370-3531 群馬県群馬郡群馬町足門町1566-5　027-373-6668　027-373-6283
	渋川市	渋川市伊香保世代間交流館　15:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉群馬県レクリエーション協会　371-0047 群馬県前橋市関根町800　027-234-5555
埼玉県	さいたま市	さいたま市立七里小学校　15:00～17:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉埼玉県レクリエーション協会　362-0031 埼玉県上尾市東町3-1679　県立スポーツ研修センター　048-776-2421　048-776-3032　sai-rec@lily.ocn.ne.jp
千葉県	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷小学校・ひょうたん畑・第二新田公園・市民の森　プログラムにより異なる　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉鎌ヶ谷市レクリエーション協会あそびの城　273-0106 千葉県鎌ケ谷市南鎌ケ谷4-9-4　047-445-9182　047-445-9182　genkiko@juno.ocn.ne.jp
	船橋市	船橋市内各地　10:00～12:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人船橋市レクリエーション協会　273-0002 千葉県船橋市東船橋4-35-6-105　047-447-9600　047-447-9600　shodamak@peach.ocn.ne.jp
	柏市	永楽台近隣センター　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉柏市レクリエーション協会　277-0042 千葉県柏市逆井2-22-2　04-7173-2228　04-7173-2228
	四街道市	四街道市立中央小学校　15:00～16:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉四街道「あそびの城づくり」運営委員会　284-0027 千葉県四街道市栗山1000-40　043-422-4678　043-422-4678　kochou61@sea.plala.or.jp
	袖ヶ浦市	袖ヶ浦市長浦公民館及び近隣小学校体育館　9:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉袖ヶ浦市レクリエーション協会　299-0245 千葉県袖ケ浦市蔵波台6-32-3　0438-62-8444　0438-62-8444
	茂原市	茂原市民センター、茂原市立荻原小学校　（平日）15:00～17:00・（土日祝）9:00～12:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉茂原市レクリエーション協会　297-0017 千葉県茂原市東郷716-4　0475-24-0868　0475-24-0868　TadashiYamaguchi@mitsui-chem.co.jp
東京都	立川市	立川市　南砂川小学校他　プログラムにより異なる　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人立川市レクリエーション協会　190-0022 東京都立川市錦町3-2-26立川市役所内別等　042-521-0941　042-521-0941　jimo@tachikawa-rec.com
	新宿区	戸塚第二小学校　16:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉（社）東京都レクリエーション協会　182-0032 調布市西町376番3号　東京都教育庁調布庁舎（味の素スタジアム内）　042-490-0012　042-490-0018　tra@tokyo-rec.or.jp
	練馬区	泉新小学校、三原台地域集会所　9:00～12:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉（社）東京都レクリエーション協会　182-0032 調布市西町376番3号　東京都教育庁調布庁舎（味の素スタジアム内）042-490-0012 042-490-0018 tra@tokyo-rec.or.jp
新潟県	長岡市	希望が丘小学校・希望が丘コミュニティセンター　14:30～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：小林　940-2125 新潟県長岡市希望が丘南6-2-14　0258-27-4198　0258-27-4198　h-koba@nct9.ne.jp
	村上市	新町公会堂　15:30～17:30 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：内山　958-0852 新潟県村上市南町2-4-25 0254-52-4574 0254-52-4574
	新潟市	新潟大学五十嵐の森キャンプ場　15:00～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉新潟県野外教育研究会　950-2102 新潟県新潟市五十嵐二の町8050新潟大学教育人間科学部　025-262-7079　025-262-7079　ohashi@edniigata-u.ac.jp
石川県	金沢市	金沢市立明成小学校及び瓢箪町公民館　15:00～16:30 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉（財）石川県レクリエーション協会　921-8043 金沢市西泉6丁目188番地　健民スポレクプラザ内　076-247-6909　076-247-5909　ken-rec@f5.dion.ne.jp
		三和小学校・三和公民館ホール　16:00～17:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉（財）石川県レクリエーション協会　921-8043 金沢市西泉6丁目188番地　健民スポレクプラザ内　076-247-6909　076-247-5909　ken-rec@f5.dion.ne.jp
福井県	勝山市	勝山市立図書館　14:00～15:00・16:00～17:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉福井県レクリエーション協会　918-8012 福井県福井市花堂北2-17-3 0776-35-5509　0776-35-5509　fukuirec@blue.hokuriku.ne.jp
	福井市	木田公民館　16:00～17:30 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉福井県レクリエーション協会　918-8012 福井県福井市花堂北2-17-3　0776-35-5509　0776-35-5509　fukuirec@blue.hokuriku.ne.jp
山梨県	南アルプス市	南湖小学校　13:30～15:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：松浦　400-0025 山梨県甲府市朝日3-5-9川崎荘201　090-9418-4372　doushinematsuura@yahoo.co.jp
	都留市	都留市ＹＬＯ会館・市内小学校校庭　13:30～15:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：庄司　090-2164-8351　0554-45-8085
	山梨市	加納岩小学校・山梨市民グランド・加納岩公民館・万葉の森公園　等　13:00～15:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉山梨市レクエーションクラブ（小池）　090-1425-6799 0553-22-3079
		日下部小学校・山梨市民グランド・日下部公民館・万葉の森公園　等　9:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉山梨市レクエーションクラブ（小池）　090-1425-6799　0553-22-3079

実施都道府県	実施市町村名	実施場所　実施時間帯　開催曜日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 問い合わせ先　郵便番号　住所　TEL　FAX　E-mail
山梨県	甲府市	石田悠遊館　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉石田地区あそびの城　400-0041 山梨県甲府市上石田2-33-27　055-226-2895　055-226-2895
長野県	松本市	田川公民館　（平日）15:30～17:30・（土日祝）9:30～12:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：田中　390-0817 長野県松本市巾上12-13　0263-35-0888　0263-35-0888　tanakach@matsumoto.ne.jp
	安曇野市	ハーモニー学園　16:00～18:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉ハーモニー学園　399-8102 長野県安曇野市三郷温3040-2　harmony@peach.plala.or.jp
岐阜県	岐阜市	岐阜県軽スポーツ研修センター　10:30～11:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人岐阜県レクリーション協会　502-0045 岐阜県岐阜市長良校前町5-14-1岐阜県軽スポーツ研修センター内　058-295-7257　058-295-5002　npo-gifu-rec@kuf.biglobe.ne.jp
		日本児童育成園　15:00～17:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉岐阜市レクリエーション協会
	各務原市	川島公民館　15:00～18:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉川島スポーツレクリエーション協会　501-6025 岐阜県各務原市川島河田町52　058-689-2870　058-689-3295
	羽島市	市民の森　羽島公園 13:00～15:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉羽島市遊楽人協会　501-6222 岐阜県羽島市正木町森新田5-8-3　058-392-2006　058-392-2006　gihu-rec-nabe@kdt.biglobe.ne.jp
	大垣市	大垣市青年の家調堂、その他　9:00～11:30・9:00～15:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人大垣市レクリエーション協会　503-0025 岐阜県大垣市見取町1-13大垣市青年の家内　NPO法人大垣市レクリエーション協会　0584-78-9369　0584-78-9369　ogaki-rec@ogaki-tv.ne.jp
静岡県	静岡市	清水高部公民館／静岡市立清水高部小学校　13:00～15:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：坂本　424-0863 静岡県静岡市清水区船越南町768-46　054-353-5331　054-353-5331　sakamoto-m@mx1s-cnet.ne.jp
	富士宮市	富士宮市富丘公民館 10:00～11:30・15:00～16:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉富士宮市レクリエーション協会あそびの城づくり実行委員会（吉野）　418-0023 静岡県富士宮市山本87-3　0544-23-8493　0545-61-9644　miyarec-yoshino@tokai.or.jp
	掛川市	宮脇団地公園　10:00～12:00・13:00～15:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉静岡県レクリエーション連盟掛川市宮脇あそびの城づくり実行委員会（川村）　436-0086 静岡県掛川市宮脇879-5　0537-22-8523　0537-22-8523　satoru-k@w7.dion.ne.jp
	焼津市	静岡福祉大学内　地域交流センター 10:00～12:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉静岡福祉大学　地域交流センター　425-0063 静岡県焼津市本中根549-1　054-623-7013　054-623-7453　chiiki@suw.ac.jp
愛知県	豊橋市	豊橋市グリーンスポーツセンター　9:30～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉（財）豊橋市体育協会内　豊橋レクリエーション協会　440-0832 愛知県豊橋市岩田町1-2　岩田運動公園内　0532-63-3031　0532-63-3032　taikyo@mx1.tees.ne.jp
	長久手町	長久手町杁ヶ池体育館・周辺　15:30～17:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：口野　480-1113 愛知県愛知郡長久手町山野田1607　0561-62-3603　0561-62-2121　taka1607@hm8.aitai.ne.jp
京都府	城陽市	城陽市立久世小学校　9:30～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉城陽市レクリエーション協会　610-0121 京都府城陽市寺田袋尻17-12　NPOきらっと内　0774-54-7232　0774-54-7236
	京丹後市	網野地域公民館（体育センター内）　14:45～16:45　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉京都府レクリエーション協会　601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町70　京都府スポーツセンタ内　075-692-3482　075-692-3482
	城陽市	寺田西小学校　9:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉城陽市寺田西地区あそび城　610-0121 京都府城陽市寺田今堀87-3　0774-53-3186　0774-53-3186
	京都市	京都市立嵯峨野小学校　14:00～16:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：丸尾　616-8317 京都府京都市右京区嵯峨野神ノ木町5　075-861-2901
大阪府	豊能町	吉川公民館・吉川小学校　15:30～17:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉あそびの城豊能　563-0105 大阪府豊能郡豊能町新光風台3-30-15　072-738-5141　072-738-5141
	高槻市	川西コミュニティーセンター　10:00～12:00・10:00～14:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：西島　569-1031 大阪府高槻市松が丘3-8-19　072-688-6370　072-688-6370　chomo@tcnzaq.ne.jp
兵庫県	洲本市	洲本市立図書館研修室　14:00～15:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：武田　656-0053 兵庫県洲本市上物部2-9-19　0799-22-2337　0799-22-2337
	高砂市	高砂市青年の家　9:30～14:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉高砂市レクリエーション協会　676-0011 兵庫県高砂市荒井町小松原5-8-34　079-442-0600　079-442-0600
	明石市	明石市立和坂小学校コミュニティーセンター　15:30～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：吉川　673-0012 兵庫県明石市和坂2-6-30　078-929-2222　078-929-2222　yoshiki-rec22@nifty.com
奈良県	奈良市	奈良市グリーンホールとその周辺　（平日）14:40～16:40・（土日祝）13:30～15:30 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：橋本　631-0013 奈良県奈良市中山町西2-950-15　0742-44-9566　0742-44-9566　hasimoto-tj@h4.dion.ne.jp
	大和郡山市	大和郡山市三の丸会館他　9:30～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉大和郡山市地区あそびの城　639-1160 奈良県大和郡山市北郡山町237　0743-52-1275
	広陵町	エコール真美内　15:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉奈良県レクリエーション協会　630-8013 奈良県奈良市三条大路1-10-7　0742-33-1045　0742-33-1045　nararec@f6.dion.ne.jp
	生駒市	生駒市小明町自治会館　13:30～15:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉生駒市レクリエーション協会　630-0201 奈良県生駒市小明町1394　0743-75-2502　0743-75-2502　y-okkun@m3.kcn.ne.jp
和歌山県	和歌山市	六十谷第12自治会館　15:00～17:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉和歌山県レクリエーション協会　640-8249 和歌山県和歌山市雑賀屋町9番地宮田ビル2階　073-422-3305　073-422-3305　wakarec@ybb.ne.jp
鳥取県	米子市	米子市住吉地区体育館・公民館　15:30～17:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉鳥取県西部レクリエーション協会　683-0804 鳥取県米子市米原1-11-23　0859-33-6704　0859-33-6704　seiburec@ybb.ne.jp
	鳥取市	鳥取市若葉台地区公民館　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：守部　689-1112 鳥取県鳥取市若葉台南5-8-17　0857-52-6138　0857-52-6138　nt2380133@ncn-t.net
		宝木地区公民館及び体育館　15:30～16:30 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：小林　689-0222 鳥取県鳥取市気高町日光969-1　0857-82-3776　0857-82-3778
島根県	松江市	来待公民館、来待書学校（体育館・グランド）　15:30～18:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉島根県レクリエーション協会 690-0037 島根県松江市西忌部町1352　山田延市様方　0852-33-2211　0852-33-2211
	浜田市	浜田市立石見公民館　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉浜田レクリエーション協会　697-0022 島根県浜田市浅井町1445-13　0855-23-4787　0855-23-4787
岡山県	和気町	佐伯小学校・佐伯体育館　15:00～18:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉佐伯レクリエーションクラブ　709-0511 岡山県和気郡佐伯町矢田366　0869-88-1411
	高梁市	高梁市文化会館・勤労青少年ホーム・高梁市節センター他　13:30～16:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉備中「あそびの城」（草野）　716-1433 岡山県真庭市下哲部3270　090-7502-2100　0866-52-3371　tra930045@yahoo.co.jp
広島県	広島市	口田公民館　10:00～15:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人広島県余暇プランナー協会　730-0036 広島県広島市中区袋町6-36　広島市まちづくり市民交流プラザ3Fメールボックス17　082-545-3838　har88860@snow.odn.ne.jp
	福山市	福山市水呑町　井上記念会館　9:30～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：佐藤　720-0832 広島県福山市水呑町5059　084-956-4056　084-956-4056　sugarbox@nexyzbb.ne.jp
	広島市	広島市吉島公民館　13:30～15:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉広島県レクリエーション協会　730-0011 広島市中区基町5-44　広島商工会議所ビル6F　県経営者協会内　082-228-6951　082-221-6830　keikyoh@dear.ne.jp
山口県	宇部市	宇部市ときわレストハウス　13:30～15:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉宇部市民活動センター青空　755-0029 山口県宇部市新天町1-2-36　0836-36-9555　0836-36-9555　hashisan@c-able.ne.jp
	防府市	千坊川砂防公園　10:00～15:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉防府市レクリエーション協会　747-0833 山口県防府市浜方198-44　0835-25-5944　0835-25-5944　wako-kis@c-able.ne.jp
	宇部市	東岐波地区　9:30～11:30・19:00～21:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉Goppoええぞなクラブ（森岡）　090-3175-6144　goppoeezona@yahoo.co.jp

実施都道府県	実施市町村名	実施場所　実施時間帯　開催曜日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 問い合わせ先　郵便番号　住所　TEL　FAX　E-mail
徳島県	美波町	美波町立由岐小学校体育館　（平日）18:00～19:30・（土日祝）10:00～12:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉ゆきあそびの城　779-2102 徳島県海部郡美波町港町字東1-4 0884-78-2822
	藍住町	藍住町民体育館及び緑の広場管理棟　16:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉藍住レクリエーションクラブ（小西）　771-1266 徳島県板野郡藍住町住吉字藤ノ木55-17　088-692-3959　088-692-3959　andii@mail3.netwave.or.jp
	徳島市	沖洲小学校　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉徳島市川内地区「あそびの城」（西村）　770-0866 徳島県徳島市末広4-10-14-703　088-625-9123　088-625-9123　nishimura@tokushima-sports.or.jp
	徳島市	徳島市川内町川内北小学校学童保育室　15:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人徳島県レクリエーション協会　771-0219 徳島県板野郡松茂町笹木野字八北開拓184番地2　088-677-5255　088-677-5255　6nz4n9@bma.biglobe.ne.jp
香川県	高松市	高松市茜会館　15:00～18:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉高松市レクリエーション協会　760-0007 香川県高松市中央町17-28　087-862-7078　087-862-7088
	善通寺市	善通寺市片原町児童公園　15:00-17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉善通寺あそびの会（大野）　765-0032 香川県善通寺市原田町1331-8　090-7626-4101
高知県	香南市	香南市野市町西野　高知県立青少年センター　9:00～11:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉高知県レクリエーション協会　780-8040 高知県高知市神田845-56　088-834-3847　088-834-3847　kochirec@s9.dion.ne.jp
福岡県	大野城市	大野城市北コミュニティセンター　14:00～17:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉大野城市レクリエーション協会　816-0923 福岡県大野城市雑餉隈町1-6-26　092-593-2081　092-593-2081 j-boy0819@yahoo.co.jp
	筑後市	県営筑後広域公園　19:00～20:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉特定非営利活動法人筑後総合スポーツクラブ　833-0005 福岡県筑後市長浜2090番地7号　筑後総合スポーツクラブ事務局　0942-53-0039　0942-53-0039　staff-k@ajpark.jp
	篠栗町	若杉区　若杉集会所　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉フォーチュネートクラブ　811-2411 福岡県糟屋郡篠栗町若杉385-17　092-947-0523　092-947-0523　smkw@joy.hi-ho.ne.jp
	福岡市	東光公民館、東光プレイルーム　16:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉東光地区あそびの城　812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-13-49-301号　092-472-1098　092-472-1098　gamakasa3@yahoo.co.jp
	那珂川町	安徳小学校体育館　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉博多南遊you会「那珂川あそびの城」　811-1213 福岡県筑紫郡那珂川町中原6-13-21　092-954-0984　092-954-0983　tisyo@tisyo.co.jp
	福岡市西区	今津特別支援学校　13:45～16:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人福岡県レクリエーション協会　812-0045 福岡県福岡市博多区東公園8-2　092-641-1022　092-641-1023　rec40@song.ocn.ne.jp
	大川市	大川市民体育館（大川中央公園グラウンド）　19:00～20:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉大川市民体育館　831-0031 福岡県大川市上巻385　0944-88-3212
	宗像市	赤間公民館　16:00～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉宗像市赤間地区あそびの城実行委員会「あそびの楽校」　811-4146 福岡県宗像市赤間4-6-11　0940-33-1964　0940-33-1964　kxfujisaki@fk.enjoy.ne.jp
	行橋市	行橋市羽根木東区日吉神社　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉NPO法人福岡県レクリエーション協会　812-0045 福岡県福岡市博多区東公園8-2　092-641-1022　092-641-1023　rec40@song.ocn.ne.jp
	春日市	春日市立春日西小学校　（平日）16:30～18:30・（土日）13:00～15:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉春日あそびの城　816-0844 福岡県春日市上白水10-146サンリバー博多南Ⅱ205　092-586-3900　092-586-3900
佐賀県	武雄市	西川登町公民館・東川登町公民館　10:00～12:00・15:00～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉武雄市レクリエーション協会　843-0232 佐賀県武雄市西川登町神六21078-2　0954-28-2797　0954-28-2797　recemi@cable-one.ne.jp
	神埼市	神埼小学校及び木戸口公園　15:00～17:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉神埼市レクリエーション協会　842-0006 佐賀県神埼市神埼町枝ケ里497-7　0952-52-3460　0952-52-3460
	佐賀市	佐賀市立富士小学校体育館　（平日）15:00～18:00・（土日祝）9:30～11:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉佐賀県レクリエーション協会　849-0201 佐賀県佐賀市久保田町徳万2207　0952-51-3093　0952-51-3144　sagareku@po.saganet.ne.jp
	多久市	多久市北多久公民館　9:30～11:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉多久「あそびの城」（伊東）　846-0003 佐賀県多久市北多久町多久原3269-2　0952-75-5979　0952-75-5979
	小城町	小城市小城町中央公民館　15:00～16:30　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉社団法人３B体操佐賀県支部　（西村）843-0022 佐賀県武雄市武雄町武雄518　0954-23-8455　0954-23-8475
長崎県	長崎市	長崎市立諏訪小学校　15:30～17:30・10:00～12:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉諏訪小学校育成会　095-821-9937
		（駅前）交通会館3階　17:00～19:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉えきまえたいけんひろば　850-0057 長崎県長崎市大黒町3-1交通会館3階　095-822-4101　095-822-4102　info@ikiikihiroba.jp
		長崎市立伊良林小学校　（平日）15:10～16:10・（土日祝）10:00～11:30　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉長崎市立伊良林小学校PTA事務局　095-821-7106
		大良地区公民館及びかぶと岩公園　（平日）15:00～17:00・（土日祝）10:00～12:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉長崎県レクリエーション協会　850-0028 長崎県長崎市勝山町44-3山口ビル301号　095-824-5145　095-823-4321　rec-naga@ngs2.cncm.ne.jp
		長崎市立桜町小学校　10:00～12:00　平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉長崎県レクリエーション協会　850-0028 長崎県長崎市勝山町44-3山口ビル301号　095-824-5145　095-823-4321　rec-naga@ngs2.cncm.ne.jp
		土井首小学校　15:30～17:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉長崎県レクリエーション協会　850-0028 長崎県長崎市勝山町44-3山口ビル301号　095-824-5145　095-823-4321　rec-naga@ngs2.cncm.ne.jp
		小江原小学校　15:00～17:00 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉長崎県レクリエーション協会　850-0028 長崎県長崎市勝山町44-3山口ビル301号　095-824-5145　095-823-4321　rec-naga@ngs2.cncm.ne.jp
	佐世保市	世知原小学校　15:30～17:30　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉長崎県レクリエーション協会　850-0028 長崎県長崎市勝山町44-3山口ビル301号　095-824-5145　095-823-4321　rec-naga@ngs2.cncm.ne.jp
熊本県	小国町	大藤庵・（小国郷内）15:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉熊本県レクリエーション協会　861-8046 熊本県熊本市石原町2丁目9番1号（熊本県民総合運動公園）　096-380-6662　096-380-6686　kumareku@aurora.ocn.ne.jp
	富合町	第一幼稚園　15:00～18:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉861-4152 熊本県下益城郡富合町新256-1　096-357-1245　096-357-4656　youikuen@agate.plala.or.jp
	植木町	蓑形小学校　15:30～17:30 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉植木町ファミリースポーツレクリエーション協会　861-0152 熊本県鹿本郡植木町上古閑113　090-2580-0622　096-272-2095
大分県	由布市	川西公民館　15:00～17:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉担当者：溝口　879-5104 大分県由布市湯布院町中川1194-4　0977-84-2612　0977-84-2612
	大分市	森町西区第2集会場　14:00～16:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉森町「あそびの城」運営委員会（武石）　870-0127 大分県大分市森町20-25　097-521-7654　097-521-7654
宮崎県	延岡市	延岡市ととろ極楽寺薬師堂会館　15:00～17:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉延岡市レクリエーション協会　882-0881 宮崎県延岡市三須町1206　090-8228-3115　0982-34-5551　nobeokareckai@ezweb.ne.jp
鹿児島県	霧島市	国分敷根公民館　（夏）16:00～18:00・（冬）15:30～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉しきねで楽しい「あそびの城」（日高）　899-4332 鹿児島県霧島市国分中央3-16-21　0995-46-8545　0995-46-8545
	鹿児島市	中州小学校・星峯西小学校　15:00～17:00　平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉鹿児島市レクリエーション指導者協会　890-0086 鹿児島県鹿児島市日之出町41-13　099-251-4469　099-251-4469
沖縄県	宜野湾市	真添市立中央公民館３階ホール　17:00～19:00 平日 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉ジュニアダンススポーツ浦添　901-2223 沖縄県宜野湾市大山2-9-2前田商事ビルA-2　098-870-2239　050-3514-6780　ynerome@miracle.ocn.ne.jp
	石垣市	ひまわり保育園　15:00～16:00 平日　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉907-0242 沖縄県石垣市白保201-2　0980-86-7978　0980-82-1965
	読谷村	横田地区集会所　10:00～12:00　土日祝 レクリエーション全般　ものづくり　昔あそび　自然体験　スポーツ・運動　地域・年中行事　伝統文化体験　学習活動 〈問〉でいごレクリエーション研究会（與那覇）　904-0301 沖縄県中頭郡読谷村座喜味2717-90　098-958-1031　098-958-1031　nao0830orion@yahoo.co.jp

コミュニケーションワーク

子どもたちと良好なコミュニケーションを取る手法として「ホスピタリティ」や「アイスブレーキング」を中心に学習し、ボランティア自身が子どもたちと接する際の自信を身につけ、さらに子どもたちが積極的に活動に関わり、子どもたち自らが主体的かつ自主的に活動を展開するように導くための、支援のポイントをグループワークやグループトレーニングを用いて以下のような内容で学習する。

（１）ホスピタリティとは？

「ホスピタリティ」とは何か。語源を紐解きながら、子どもたちに接する際の「ホスピタリティ」についての理解。子どもたちの立場に立って、子どもたちが安心して居心地の良さを感じるような心遣いや意識を常に持って接することをボランティア各自が自覚する。

> 英語のホスピタリティ（Hospitality）の語源は、ラテン語のHospesにさかのぼると言われている。ホスピスとは、「参拝者や巡礼者のための宿泊所や宿坊」「病人や貧困者などの収容所や家」(研究社「新英和辞典」)のこと。この単語からhosht（主人）やhospital（病院）、hotel（ホテル）が派生し、これらを総称して「ホスピタリティ」という言葉ができた。

（２）ホスピタリティを発揮するためのポイント、技法

①コミュニケーション不足がもたらす様々な問題を浮き彫りにする

子ども自身、親子、夫婦、学校、地域など、子どもを取り巻く様々な問題は、相手のことを思いやる、相手の立場に立った考え方ができなくなってきていることに起因している。現代社会は、コミュニケーション不全を起こしているともいえる。まずはボランティア自身が良好なコミュニケーションを取るためのポイントを学習し、様々な場面を体験することの必要性を学ぶ。

②「対個人」としてのホスピタリティ、小グループ、集団に対するホスピタリティの示し方を理解

子どもたちと接する活動の中でのホスピタリティにも、「対個人」「小グループ」「集団」と場面によって異なり、それぞれの場面でどのようにホスピタリティを発揮するかを知る。

③ホスピタリティ・トレーニングの実際

以下のように、ホスピタリティを発揮するためのポイントや技術を、グループトレーニングを中心に学ぶ。

A―コミュニケーションの技術

- a）非言語伝達技術：表情、仕草、動作（他者を受け入れたことを身体で示す）
- b）言語伝達技術　：言葉、アクセント、テンポ（他者への思いを言葉で示す）
- c）ラポールづくり：聴く（他者との信頼関係をつくる）
- d）ペーシング　　：会話の促進（他者の気持ちやペースに合わせる）
- e）表現力　　：自己紹介、あいさつ（自分の事を伝える、知ってもらうことにより他者に一歩近づく）

B―他者の気持ちを思う体験

f）共にある自分―
- 他者の大切さに気付く
- 無視されない大切な存在としての自分に気付く
- 相手への気持ちを思いやる
- 多様な価値観に気付く
- 相手の気持ちを知ろうとすることの大切さ

（３）アイスブレーキングとは－実体験を通じての基本技術

グループ活動を始める際に、素材としてゲーム等を取り入れたり、ユーモアを交えた話しを入れたりして、参加者（子どもたち）一人一人の緊張やグループ内の硬い雰囲気を和らげ、グループの一体感や安心感をつくり出し、一人一人が心をオープンに自分らしさを活発でき、楽しく活動に参加できる環境を整える技法を学ぶ。

①アイスブレーキングの素材の紹介と実体験

次のような、素材（ゲーム）を用いてアイスブレーキングを実際に体験する。

○肩もみ　　○よろしくジャンケン
○シャドーボクシング　　○肩たたきは誰
○後出しジャンケン　　○ステレオコールなど

②アイスブレーキングとしての集団ゲームのリードの基本技術について学ぶ

アイスブレーキングの実体験を振り返りながら、子どもたちが心を解放していく過程やグループ間での達成感を味わうことの感動体験を通じてコミュニケーションを拡げ、子どもたちの主体性や協調性を引き出すゲームのリードのポイント（基本技術）を学ぶ。

○ポイント：手順を踏んで素材を提供する

１）簡単にできる素材の提供から難易度の高い素材の提供へ

２）“同時発声・同時動作”の意義と技法の習得など

（４）子どもの居場所でのプログラムの組み方

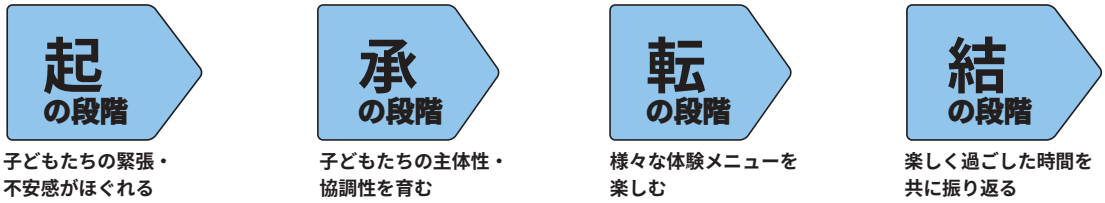
以下のような項目で、効果をより高めるためのプログラムの組み方について学ぶ。

①目的と期待される効果

○子どもたちが“安心”して集い、“安全”に遊ぶことができる
○子どもたちの“成長”につながる時間を提供
○子どもたちに多様な遊びを通した“体験”を提供
○子どもたちを支える地域の“仲間（大人）の輪”が広がっていく

②プログラムの基本構造

上記のそれぞれの「目的と期待される効果」を生むために、提供する様々な素材（活動や種目）を起承転結の構造に合わせて、どのようにプログラムを提供すれば一層の効果を生むかについての基本的なプログラムの組み方を学ぶ。



（５）様々なプログラムのシミュレーションと評価

スポーツや身体を動かすプログラム、伝承あそびや文化活動を進めるプログラムなど、それぞれの活動現場を想定して、研修ボランティア同士でシミュレーションと評価を行い、現場デビューを行なう際の自信を高める。

（６）子どもたちを支える地域の仲間（ボランティア）の現場デビュー

従来から活動を展開・リードしてきた先輩スタッフや一緒に学んだ仲間がフォロー役として付き添い、研修で学んだプログラムを子ども達に提供し、現場へのデビューを果たす。

レクリエーションインストラクターの紹介

よりコミュニケーションワークを身に付けたい方のために

日本レクリエーション協会は、レクリエーションを通じて地域貢献をしてみたいという方のために、その技能や実力をつけていただくことを目的とした公認指導者の養成事業を行なっている。

公認資格には、①レクリエーション・インストラクター（以下、レク・インストラクター）、②レクリエーション・コーディネーター、③福祉レクリエーション・ワーカー、④余暇開発士－の4資格がある。そして、レクリエーションの学習体系も、①基礎学習、②マネジメントに関する学習、③福祉領域でのレクリエーション活用に関する学習、④余暇活用に関する学習－の４つで構成される。

この中で、レク・インストラクターの学習は「基礎学習」にあたる。基礎学習はレクリエーションの最初の学習であり、次の３点をねらいとしている。

(1) レクリエーションの意義やとらえ方について理解を深める
(2) 集団を対象としたレクリエーション・ワークを身につける
(3) それらの知識・技術を活かし、地域社会の課題に向けた活動を計画・企画する

学習時間：60時間

○理論（15時間）

レクリエーションの基礎理論	(4.5時間)
レクリエーション支援論	(4.5時間)
レクリエーション事業論	(6.0時間)

○実技（36時間）

コミュニケーション・ワーク	(6.0時間)
目的にあわせたレク・ワーク	(9.0時間)
対象にあわせたレク・ワーク	(6.0時間)
演習Ⅰ	(7.5時間)
演習Ⅱ	(7.5時間)

○現場実習（9時間）

資格取得までのステップ

青年の家などの施設、各種目団体等が開催
都道府県レク協会、市町村レク協会、行政
都道府県ごとに開催
対象となる講習会を受講
レクインストラクター資格取得の

→

（倫理15時間＋実技36時間＋現場実習）
必要なカリキュラムをすべて履修

→

都道府県レク協会に申請
資格認定のための審査

→

合　格

→

公認登録に関する費用の納入
登録申請の提出
資格登録の手続き

→

資格認定証・資格証をお送りします。
資格取得

レク・インストラクターの資格に興味・関心をお持ちになられたら、最寄のレクリエーション協会にお問合せください。

レク・インストラクター資格取得カリキュラムの一部を活用することで、地域の課題に合ったボランティアの研修プログラムを組み立てることが可能です

「放課後子ども教室」などの事業をご担当させる方の中で、その現場に携るスタッフにコミュニケーションワークや様々なレクリエーション・プログラムの運営の実力を付けさせたいとお望みの方もいらっしゃるかと思います。

レク・インストラクター資格の取得は、あえて専門的な研修の場に参加しなくても、普段の活動の場を活かしながら研修プログラムを組み立てて進めていくことも可能です。それぞれの活動の課題に合った内容のプログラムを展開しながら、レクリエーションの基礎学習を習得する方法をお勧めします。詳しくは最寄のレクリエーション協会にお問合せください。

＜事　例＞

1）「子どもの居場所づくりボランティア講習会+介護予防ボランティア講習会」

・子どもの居場所づくり、介護予防領域で活躍するボランティアを育成する研修会を同時開催
・1日目を共通講座として開催し、2日目にそれぞれの学習に別れて展開
・2日目は、ボランティアとして活動するそれぞれの現場体験を行った後、それぞれの対象者への提供方法等を学習
・その後、各現場のボランティアとして活動

2）講座内容

コース	＜1日目＞ A 共通学習：4時間	＜2日目＞ B 現場実習：3時間	C 専門学習：3時間
子ども応援コース	■コミュニケーションを促進するコツ ・対象者の理解、相手を受け入れる姿勢 ・対象者と1対１、または1対集団のコミュニケーションのとり方 ※演習を中心に体験	■放課後子ども教室の現場体験 ・子どもと一緒に遊ぼう	■子どもに対するプログラムの展開ノウハウ ・子どもへのレクリエーションの展開方法
高齢者応援コース		■いきいきサロンの現場体験 ・プログラムの視察 ・既存指導員のサポート	■高齢者に対するプログラムの展開ノウハウ ・高齢者へのレクリエーションの展開方法

3) レク・インストラクターカリキュラムの履修認定

日	時間数	概　　要	カリキュラムとの対応	
			学習テーマ	履修時間
1日目	2時間	「対象者の理解、相手を受け入れる姿勢」	コミュニケーションワークⅠ	2時間
	2時間	「対象者と1対1、または1対集団のコミュニケーションのとり方」	コミュニケーションワークⅡ	2時間
2日目	3時間	子ども「あそびの城体験：子どもと一緒に遊ぼう」 高齢者「サロンでの既存指導員のサポート体験」	演習 1―1，2	3時間
3日目	3時間	子ども「子どもへのレクリエーションの展開方法」 高齢者「高齢者へのレクリエーションの展開方法」	演習 1―1，2	3時間
	3時間	あそびの城ボランティアデビュー いきいきサロンボランティアデビュー	現場実習：スタッフ参加	3時間

4）修了証の発行

・セミナー受講証明としての修了証を発行し、ボランティア活動のはじめの一歩を後押し
・修了証を提示した場合、レク・インストラクター資格取得のためのカリキュラムの一部が免除されます

都道府県レクリエーション協会連絡先一覧

団体名	住所・TEL・FAX	URL・E-MAIL
北海道レクリエーション協会	〒003-0022 札幌市白石区南郷通2丁目南10-10　リラオクムラ502 011-866-0979　011-866-0979	http://www4.ocn.ne.jp/~do-rec/top.htm　hokkaidorecreation@gaea.ocn.ne.jp
青森県レクリエーション協会	〒038-0031 青森市三内字沢部191-1　青森市中央市民センター三内分館内 017-766-0264　017-766-0264	http://www7a.biglobe.ne.jp/~aomoriken-rec/　aomoriken-reku@ksh.biglobe.ne.jp
NPO法人岩手県レクリエーション協会	〒020-0196 盛岡市みたけ3丁目38番20号　岩手県青少年会館内 019-647-7413　019-647-9211	iwate-rec@h3.dion.ne.jp
NPO法人宮城県レクリエーション協会	〒981-0913 仙台市青葉区昭和町3-15　ネオプラザ北仙台429号 022-718-0951　022-718-0952	http://www.miyaginet.com/rec　rec@miyaginet.com
秋田県レクリエーション協会	〒011-0905 秋田市寺内神屋敷3-1　秋田県青少年交流センター内 090-4635-9997　018-847-6143	
山形県レクリエーション協会	〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号　山形県スポーツ会館内 023-642-4445　023-642-4445	http://park.geocities.jp/yamareckyo_kai/aisatu.html　yamagata@bz01.plala.or.jp
福島県レクリエーション協会	〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5　福島県青少年会館5階 024-544-1886　024-544-1886	f-kenrec@khaki.plala.or.jp
茨城県レクリエーション協会	〒310-0054 水戸市愛宕町4-1　水戸生涯学習センター内 029-300-6077　029-300-6078	http://www16.ocn.ne.jp/~ibareku/　ibarekyo@beach.ocn.ne.jp
栃木県レクリエーション協会	〒320-0057 宇都宮市中戸祭1-6-3　スポーツ会館内 028-650-3330　028-650-3331	http://www.h2.dion.ne.jp/~rectochi/　rec-tochigi@h2.dion.ne.jp
群馬県レクリエーション協会	〒371-0047 前橋市関根町800 県総合スポーツセンター内 027-234-5555（内507）　027-234-5926	gun-rec@gunma-sports.or.jp
埼玉県レクリエーション協会	〒362-0031 上尾市東町3-1679　県立スポーツ研修センター内 048-776-2421　048-776-3032	http://saitama-rec.cool.ne.jp/　sai-rec@lily.ocn.ne.jp
千葉県レクリエーション協会	〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323　千葉県総合スポーツセンター内 043-290-8361　043-290-8362	http://chibaken-rec.com/　recchibaken@bz03.plala.or.jp
NPO法人神奈川県レクリエーション協会	〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町3-1　神奈川県立スポーツ会館内 045-320-2430　045-320-0640	http://www.kanagawa-rec.or.jp/　jim@kanagawa-rec.or.jp
（社）東京都レクリエーション協会	〒182-0032 調布市西町376番3号　東京都教育庁調布庁舎（味の素スタジアム内） 042-490-0012　042-490-0018	http://www.tokyo-rec.or.jp/　tra@tokyo-rec.or.jp
（社）新潟県レクリエーション協会	〒950-0933 新潟市中央区清五郎67-12東北電力ビックスワンスタジアム内 025-287-8709　025-287-8710	http://niigatarec-hp.hp1.allin1.jp/　n-kenrec@cameo.plala.or.jp
富山県レクリエーション協会	〒930-0096 富山県富山市舟橋北町7-1富山県教育文化会館4階 076-431-9070　076-431-9070	http://www.viplt.ne.jp/tomirec/　tomireku9070@arrow.ocn.ne.jp
（財）石川県レクリエーション協会	〒921-8043 金沢市西泉6丁目188番地　健民スポレクプラザ内 076-247-6909　076-247-5909	http://www.k5.dion.ne.jp/~ken_rec/　ken-rec@f5.dion.ne.jp
福井県レクリエーション協会	〒918-8012 福井市花堂北2丁目17-3 0776-35-5509　0776-35-5509	http://fukuirec.com/　fukuirec@blue.hokuriku.ne.jp
山梨県レクリエーション協会	〒400-8504 甲府市丸の内1-6-1県教育庁スポーツ健康課内 055-223-1782　055-223-1786	maeda-gwv@pref.yamanashi.lg.jp
長野県レクリエーション協会	〒380-0836 長野市南長野南県町688-2　県婦人会館　2F 026-233-5575　026-233-5653	http://www.dia.janis.or.jp/~nkenreku/　nkenreku@dia.janis.or.jp
NPO法人岐阜県レクリエーション協会	〒502-0045 岐阜市長良校前町5丁目14番1　軽スポーツ研修センター内 058-295-7257　058-295-5002	http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-gifu-rec/　npo-gifu-rec@kuf.biglobe.ne.jp
静岡県レクリエーション協会	〒420-0068 静岡市葵区田町1丁目70-1　県青少年会館内 054-254-0919　054-254-0925	http://www.youthnet.or.jp/rec　shizu-rec@youthnet.or.jp
愛知県レクリエーション協会	〒462-0846 名古屋市北区名城1-3-35　愛知県スポーツ会館内 052-618-5409　052-618-5408	http://www.rec-aichi.sakura.ne.jp/　office@rec-aichi.sakura.ne.jp
（社）三重県レクリエーション協会	〒514-0002 津市島崎町3-1　三重県島崎会館内 059-246-9800　059-246-9801	http://www.ztv.ne.jp/web/mie-rec/　mie-rec@ztv.ne.jp
滋賀県レクリエーション協会	〒521-1123 彦根市肥田町720　聖泉大学　多胡研究室内 090-5098-6215　077-526-4105	http://www.shigarec.com/　office@shigarec.com
京都府レクリエーション協会	〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70　京都府スポーツセンター内 075-634-7584　075-634-7584	http://www.kyoto-rec.jp/　info@kyoto-rec.jp
（財）大阪府レクリエーション協会	〒556-0011 大阪市浪速区難波中3-4-36　大阪府立体育会館内 06-6634-1702　06-6634-1703	http://www.ora.ecnet.jp/　ora@poppy.ocn.ne.jp
NPO法人兵庫県レクリエーション協会	〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3－28　兵庫県中央労働センター5階 078-351-3307　078-351-3308	http://www.hyogokenrec.jp/　hyorec28@axel.ocn.ne.jp
NPO法人奈良県レクリエーション協会	〒630-8013 奈良市三条大路1-10-7 0742-33-1045　0742-94－5001	http://www.nararec.com/　npo-nararec@sea.plala.or.jp
和歌山県レクリエーション協会	〒640-8249 和歌山市雑賀屋町9番地　宮田ビル2階 073-422-3305　073-422-3305	wakarec@ybb.ne.jp
鳥取県レクリエーション協会	〒680-0821 鳥取市瓦町312　鎌谷様方 0857-23-1866　0857-23-1866	kamatani_mari@yahoo.co.jp
島根県レクリエーション協会	〒690-0037 松江市西忌部町1352　山田様方 0852-33-2211　0852-33-2211	http://shimane-rec.netlab.jp/
岡山県レクリエーション協会	〒700-0012 岡山市いずみ町2-1-3岡山県総合グラウンド桃太郎アリーナ内広域スポーツセンター 086-253-7545　086-253-2800	http://www6.oninet.ne.jp/oka-rec/　oka-rec@po6.oninet.ne.jp
広島県レクリエーション協会	〒730-0011 広島市中区基町5-44　広島商工会議所ビル6F　県経営者協会内 082-228-6951　082-221-6830	keikyoh@dear.ne.jp
（社）山口県レクリエーション協会	〒753-8501 山口市滝町1－1　県教育庁学校安全・体育課内 083-934-5510　083-934-5510	http://www1.ocn.ne.jp/~yamareku/　yamareku@oregano.ocn.ne.jp
NPO法人徳島県レクリエーション協会	〒771-0219 板野郡松茂町笹木野字八北開拓184番地2 088-677-5255　088-677-5255	http://toku-rec.health-life.net/　6nz4n9@bma.biglobe.ne.jp
NPO法人香川県レクリエーション協会	〒760-0007 高松市中央町17-28　八代ビル1階 087-862-7078　087-862-7088	http://www.kagawa-rec.org/　kagawa-rec@biscuit.ocn.ne.jp
NPO法人愛媛県レクリエーション協会	〒791-1136 松山市上野町甲650番地　愛媛県生涯学習センター内 089-963-1993　089-963-3269	http://www.ehimerec-or.jp/　ehimerec@joy.ocn.ne.jp
高知県レクリエーション協会	〒780-8040 高知市神田845-56　濱田様方 088-834-3847　088-834-3847	kochirec@s9.dion.ne.jp
NPO法人福岡県レクリエーション協会	〒812-0045 福岡県福岡市博多区東公園8-2 092-641-1022　092-641-1023	http://rec40.net/　rec40@song.ocn.ne.jp
佐賀県レクリエーション協会	〒849-0201 佐賀市久保田町徳万2207　江口様方 0952-51-3093　0952-51-3144	sagareku@po.saganet.ne.jp
NPO法人長崎県レクリエーション協会	〒850-0028 長崎市勝山町44-3　山口ビル301 095-824-5145　095-823-4321	http://www.rec-nagasaki.org/　rec-naga@ngs2.cncm.ne.jp
熊本県レクリエーション協会	〒861-8046 熊本市石原町2丁目9番1号（熊本県民総合運動公園） 096-380-6662　096-380-6686	http://www18.ocn.ne.jp/~kumareku/　kumareku@aurora.ocn.ne.jp
大分県レクリエーション協会	〒870-0954 大分市下郡中央町1丁目3-12号　田島ビル104号 097-567-9590　097-567-9590	rec-oita@oct-net.ne.jp
宮崎県レクリエーション協会	〒889-2151 宮崎市大字熊野1443-12　県スポーツ指導センター内 0985-58-0096　0985-58-0097	http://www.miyazaki-rec.jp/　info@miyazaki-rec.jp
鹿児島県レクリエーション協会	〒890-0062 鹿児島市与次郎1-4-20　県総合体育センター内 099-255-0225　099-255-0225	http://www.k5.dion.ne.jp/~kakenrec/　kaken-rec@s6.dion.ne.jp
沖縄県レクリエーション協会	〒904-2173 沖縄市比屋根672　（沖縄県総合運動公園） 098-932-9870　098-932-9870	

おわりに

放課後子どもプラン推進事業には、「放課後子ども教室推進事業」以外に、各市町村が実施する放課後対策事業に関わるコーディネーターや安全管理員等の事業関係者の資質向上や情報交換等を図るための研修を行う「放課後子ども教室指導者研修・推進委員会事業」が位置づけられている。その具体的な事業の一つに「安全管理員等研修の実施」があり、安全管理、子ども達との接し方、活動プログラムの企画・実施方法などの資質向上を図るための講義等を実施することとしている。

3カ年展開された地域子ども教室では、教室の運営を支える人材不足が大きな課題の１つとされてきた。しかし、ボランティア志向を持った人は地域に多数いることは間違いない。そうした人をいかに巻き込むか、いかに継続して活動してもらうか。

本モデル事業では、研修会をそのきっかけとして展開してきた。研修内容も崇高な知識・技術を学習するのではなく、「レクリエーション」を前面に出し、良好なコミュニケーションを図る技法や展開方法を受講者自身が楽しみながら体験し、自信を付けていただくことを主眼において実施した。

ボランティアするのに研修が必要か？研修しなければできないのか？という声も聞く。しかし、対象となる子ども達とどう接したらよいか、どう遊びを伝えればよいか困ってしまうケースはよくある。やり方を教えても、なかなか思うようにいかないと、ついつい「そうじゃない」と言ってしまい、「つまんなーい」と言われてしまったケースはよく聞く話である。

新聞等で報じられている通り、放課後子ども教室の指導員の資質向上は、保護者からの要請もあり、その必要性が高まっていることは事実である。しかし、その一方で多様な人材の関わりを求める声があるのも事実である。

地域には「関わりたい」、「地域で何かしたい」、「自分の趣味を子ども達に紹介してあげたい」という思いを持った大人がたくさんいる。本モデル事業が、そうしたの人の思いを形にする手助けとなり、地域の様々な大人により支えられる放課後子ども教室の誕生に貢献できれば幸いである。

事業推進委員

浅野　祥三	財団法人日本レクリエーション協会　常務理事兼事務局長
江口　英子	佐賀県レクリエーション協会　事務局長
金子　和子	社団法人　日本３Ｂ体操協会　公認講師
後藤　　隆	江戸川区教育委員会すくすくスクール係　係長
猿田　重昭	千葉県レクリエーション協会　事務局長
丸山　　正	社団法人東京都レクリエーション協会　副会長
平田　　厚	静岡福祉大学　教授（同大学地域交流センター長）

特定公益増進法人
財団法人　日本レクリエーション協会
〒101-0061　東京都千代田区三崎町2-20-7　水道橋西口会館6階
TEL　03-3265-1244　　FAX　03-3265-1253
e-mail　soshiki@recreation.or.jp
URL　　http://www.recreation.or.jp/
あそび.net　　http://asobi.recreation.jp/

本冊子は、平成19年度文部科学省「総合的な放課後対策推進のための調査研究」委託事業を受けて制作したものです